

# 台湾における小学校英語教育の現状

中 野 聡

## I はじめに

### 1 日本の小学校外国語活動・外国語科全面实施と文部科学省の動向

2020年度から小学校における現行学習指導要領の全面实施に伴い小学校3、4年生の外国語活動、小学校5、6年生の外国語科の授業が実施されている。

2020年の全面实施に向けて、文部科学省(2015b)によれば、「英語力・指導力の高い教員の養成・採用・研修を一体的に推進」することを目標として掲げ、現職教員対象に「英語教育推進リーダー研修会」を実施した。これは、リーダーとして選抜された教員が中央研修を受け、その研修成果を各地域の中高等学校は全担当教員対象に、小学校は、地域の中核教員対象に地域の英語教育の推進を図ることが求められた。

一方、文部科学省(2021)は、教科指導の専門性を持った教師によりきめ細かな指導と中学校の学びにつながる系統的な指導の充実を図る観点から、外国語、理科、算数、体育の4教科を優先的に専科指導の対象とすべき教科とすることが適当した。加えて、読売新聞(2024)によれば、中央教育審議会は、教科ごとに専門の教員が教える「教科担任制」を学級担任の負担を減らし、授業の質を向上させるための高学年(5、6年)から、中学年(3、4年)に拡大する案をまとめた。

### 2 小学校指導者の取組と現状

一方、研修の実施も経て、イーオン(2019、2021)の調査によれば、外国語活動、外国語科(以下2つを指す場合は、「小学校英語」とする)に関して、「授業運営がうまくいっているか」を尋ねたところ英語科に関しては、「うまくいっている」「おおむねうまくいっている」を合わせて27%、「うまくいっていない」「あまり自信がない・不安の方が大きい」を合わせて33%である。また、「外国語活動」に関しては、「うまくいっている」「おおむねうまくいっている」を合わせて22%、「あまり自信がない・不安の方が大きい」を合わせて24%である。これは、「小学校教員向け指導力・英語力向上オンラインセミナー」参加者を対象とした調査のため、全国的な傾向というのは拙速かもしれないが、不安に感じている教員が一定数いることは、確かである。

また、黒木、藤井、南、湯澤(2024)では、指導者として感じる児童の英語の時間の表れについて①児童は、少し難しいと感じても、とにかく自分の言いたいことを英語で言ってみたく

いう様子。②文字の成り立ちとアルファベット、社会科や家庭科で扱ったゴミ問題など他教科と英語を関連付けることは、学習内容としても効果的。③児童は、自分がわからないと言いにくくて、本当はできるようになりたいのに、「自分は、英語での活動はしない」という態度をとってしまい、苦手になってしまう。④Small Talk の中間指導で、児童からわからないことを引き出すのは、難しい。それを踏まえて、活動の際に日本語を使ったり、言葉に詰まったりしている場面を振り返って、指導者の気づきとして児童と共有している。また、児童の書く振り返りシートを次時に向けて活用している。などが指摘されている。

一方、英語嫌いが増えているのではないかという声は、メディアでも取り上げられている。全国学力・学習状況調査の質問肢調査によれば、その傾向が疑われる。小学校対象の2014年度調査では、「英語の勉強は好きですか。」という問いに対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計パーセントが76.2%であった。これに対して2023年度調査では、69.3%となっている。また、中学校対象の調査では、同じ質問肢に対して2014年度は、60.2%が2023年度は、52.3%に変化している。小学校英語が完全実施された児童が中学校に進学し、この調査の対象となるのはまだ少し先であること、2020年度の全面実施の年度がコロナ禍で対面式の授業が十分にできない状況であったことなどから結論づけることは時期尚早であるが、加藤(2024)も言うように今後も注視する必要がある。

このように、研修実施し、積極的に英語授業づくりに取り組む指導者にも不安があること、また全面実施後の児童の課題も含んだ実態が明らかになりつつある。

小学校英語が始まって5年目を迎えた今、よりよくするための工夫が教育行政でも、各学校、各教員間でも行われていることがわかる。

### 3 東南アジアの小学校英語教育の動向

世界に目を向けると、日本よりも早く小学英語教育を実施している国もある。東南アジアでは、台湾、中国、韓国が日本より早く、台湾は2001年、中国は2005年、韓国は1997年に実施を始めている。ただし、山田(2011)、バトラー(2005)によって、実施学年をはじめ、実施状況は、同一国内でも地域によってまちまちであることが指摘されている。

こうした日本より先に小学校英語を実施している国は、上で述べた同様の問題があるのだろうか。またもしあるとすればどのようにこれらの問題を解決しているのだろうかという疑問が今回の調査の始点である。

中でも台湾は、2001年の5、6年生に対する全面実施より前から多くの地域で小学校英語の授業が行われていた。台湾は、日本と同じ島国であり、親日家も多く、観光、経済面でも繋がりも強い関係にある。また、1972年の日中共同声明以降、日本と台湾は正式な外交関係を持っていないが、両国は相互に重要なパートナーとみなし、安全保障や経済などの分野で協力を深めている。The Economist Intelligence Unit (2021)では、台湾は「改善の進む絶対的な民主主義」であると評された。民主主義体制とは、統治者が自由かつ公正で、競争的な選挙を通じて

選ばれる政治体制と捉えるなら、台湾、日本共に民主主義を掲げる国であり、アメリカとの友好関係を重視している。そうしたことから、授業を比較的自由に参観し、小学校英語教育に関する意見交換も率直にできる関係にある。そこで、今回は、小学校の英語の実態について調査することとした。

## II 台湾の小学校に英語教育が導入された経緯と現状

### 1 導入の経緯

台湾は使用言語について、その歴史の中で大きな変化を経験している。1600年代にオランダは台湾島の南方から、スペインは、北方から侵入し、貿易拠点として、台湾で大きな影響力を持つことになった。その後、鄭成功がオランダ軍を破った。1885年には、中国の省となるが1895年日清戦争に負けて、下関条約によって台湾は日本の領土となった。本名(2002)によれば、日本の統治によって、学校教区制度の整備、農業改革と産業の拡大、工業化政策、学術調査など台湾の近代化に貢献したという見方もできる。一方、游、周(2022)によれば、日本語を「国語」とする共通語として、若い台湾人エリートは、日本語を通して新しい知識を吸収した。それまで福建省南部から移住してきた人が話す閩南語を全体住民の約7割、客家系を1割強、その他オーストロネシア語族がいくつかあり、互に通じ合わない状況であった。それが、日本語を「共通語」にすることによって互いに意思疎通ができるようになった。具体的に言えば、家庭ではそれぞれの母語を使用し、学校、職場では「日本語」を使うという状況である。

その後、日本の敗戦により、1945年以降は、「北京語(台湾華語ともいう)」が台湾の「国語」となった。1949年には蒋介石率いる国民党軍が台湾に来て、「外省人」(本土から来た人)と呼ばれ、それまでも台湾にいた人を「本省人」と呼び区別した。この時代、倉本(2022)によれば、「多くの台湾人たちは、公共空間で苦労して学習した日本も母語である台湾語(あるいは他のエスニック言語)を使うことができず『沈黙の世代』として長らく口をつぐみ続けること」になった。吉田(2022)によれば、「台湾語は家族や友人といった親しい人同士の私的な場面、台湾華語は学校の授業や職場の会議といった公の場で使用される。」というのが、わかりやすい説明であると言う。

その後、1971年に中華人民共和国が国際連合に加入したことに伴い、台湾は国際連合を脱退した。正式な国交はないが、アメリカとの関係の強化、貿易国として外国と交渉するツールとして台湾にとって英語は重要性を増した。2016年には、台湾政権は、「新南向政策」を進めた。この政策は、ASEAN10カ国、南アジア6カ国、オーストラリア、ニュージーランドの18の目標国と人材、資金、技術、文化、教育などにおける双方向の交流を拡大し、次第に「経済共同体意識」を確立していこうとするものである。

また、齋藤(2021)によれば、「新住民」の存在も看過できない。この「新住民」は、1990年代以降主に東南アジア(ベトナム、タイ、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、カンボジア、フィ

リピン)や中国・香港などから台湾籍の男性との婚姻や労働などを目的として台湾に移り住んだ女性移民を指す。この新住民の2世が2010年頃には、進学、就職する年代となっている。

加えて、2018年には、2030年より台湾を中国と英語のバイリンガル国家にする政策を閣議決定した。ここでは、初中教育でのバイリンガル教育に関して「学習は知識や技術の習得に限定せず、学習を生活と結びつけるように留意する」(中岡:2022)として幅広い英語教育を行おうとしている。

一方で同じ年に「国家言語発展法」が成立した。齋藤(2021)によれば、2017年度現在の人口比率と主な使用言語は、外省人=約13%・中国語、本省人=約70%・台湾語(閩南語)、客家人=約15%・客家語、先住民族(台湾原住民族)=約1.8%・16民族の先住民族語である。これは、台湾におけるすべてのエスニック・グループの使用する言語と台湾手話を「国家言語」と定めて、その伝承、復興、発展を保障することで台湾における言語文化の多様性を尊重し、どのエスニック・グループの言語も平等であることが確認されている。バトラー(2005)は、英語の代わりに台湾語を公用語にすべきという意見もあるが、エスニック言語を公用語化することで中国を刺激すること、特定にエスニック言語を公用語化することで国内のエスニック・グループ間の緊張が高まってしまうことなど台湾の複雑な政治社会情勢にその因を探る仮説を述べている。

こうした社会的背景を踏まえながら、台湾では、「課程標準」を教育課程の基準としてきた。それは、「課程を編成する準則であり、各教育段階の学校における教育の目標を確立し、各科目の過程の発展の方向を計画するとともに、実施の方法を定めることを旨とする」と定義され、幼稚園から高級中学及び高級職業学校の段階において制定される。この総則では、各教育段階における目標、科目と時間数、課程の編成、教材の編纂と選択、授業の実施、評価方法が示されている。一方、科目別の課程標準では、教育の目標、授業時間の配分、教材編纂の綱要、実施の方法が詳細に示されている。

この起源は、1929年の「小学課程暫行課程標準」にさかのぼり、最後の改定となる1993年までに、7回の全面改定と1度の部分改定が行われた。2000年に義務教育段階の9年間をまとめた「国民中小学九年一貫課程暫行綱要」が制定された。これは、それまでの「国民中学課程標準」と「国民小学課程標準」を9年間一貫の精神を大切に改定されたものである。この「国民中小学九年一貫課程暫行綱要」は2001年に実施され、2003年には、正式な「国民中小学九年一貫課程綱要」となった。

小学校英語は、この「国民中小学九年一貫課程暫行綱要」によって必修化された。それ以前には1993年「国民小学課程標準」では、「外国語」を「団体活動」として「スポーツ」「音楽」「美術と工作」「言語」「科学」「レクリエーション」の6つのカテゴリーの「言語」に例示された。このことをステップとして必修化に伴う全面実施もスムーズに進んだ。

2019年には、「十二編国民基本教育課程綱要(以下「十二年課程綱要」)」が全面実施されている。これは、小・中・高の一貫教育を導入し、高校までの授業料無料、非強制的進学および入試免

除などを基本として実施されている。ここでは、第二外国語のカリキュラム以外に閩南語、客家語、先住民諸語に加えて、新住民の言語も母語教育というカリキュラムに含まれることになった。

## 2 現状

現在台湾小学校では、2019年に正式実施されている「十二年課程綱要」に基づいて実施されている。この綱要は、国民小学校から高等学校までの12年間を意識して、基本理念として①自主行動：自己管理と自己成長を重視、②溝通互動(日本語訳：コミュニケーションと交流)：効果的なコミュニケーションと協力、③社会参与：社会的責任と市民意識の育成を掲げている。課程目標としては、学生が多様な知識とスキルを身につけ、社会で活躍できるようにすることを目指す。陳(2021)によれば、「今回の改定は、コンペテンシー(核心的素養)重視のカリキュラム展開を目指すもので、それぞれの学校が、学校を主体としたカリキュラムを作成するように奨励している」。また、「学校教育は、児童生徒の学習の動機と情熱を引き出し、児童生徒が自己を開発して、他者、社会、自然と協調する能力を培うように支援しなければならないことを意味している。また、児童生徒が、命の意義を学び、体験したことを活用して実践し、社会、自然、文化の持続可能な発展に寄与したいとの願いを抱き、互いの共存共栄を求めるようにしなければいけない。」と言う。

教育部は、児童生徒の発達を支援するために4つの教育課程の目標を示している。それは、「潜在能力の最大限の発揮への啓発」「生活力の育成」「キャリア発達の促進」「市民としての責任感の涵養」である。これらの目標を達成するために、「キー・コンペテンシー(核心素養：人が現在の生活に適用し、未来に立ち向かうために必要とされる知識、能力、態度)」を小・中・高校で育てていくことを目指している。

小学校の英語の目標は、①英語を使って簡単な会話ができるようにすること、②リスニングとスピーキングの強化：英語の音声に慣れ、基本的な表現を聞き取ったり話したりできるようにすること、③文化理解の促進：英語圏の文化や習慣について学び、異文化理解を深めることである。これにより、児童が英語を使って自分の考えや気持ちを表現できるようになることを目指している。

教育内容としては、①聞くこと：ア. 簡単な指示や質問を理解する。イ. 短い会話や物語を聞いて内容を把握する。②話すこと：ア. 自己紹介や簡単な質問に答える。イ. 日常的な表現やフレーズを使って会話する。③読むこと：ア. 簡単な単語やフレーズを読む。イ. 短い文章や物語を理解する。④書くこと：ア. 簡単な単語やフレーズを書く。イ. 自己紹介や簡単な文章を書く。と定めている。

指導方法としては、①体験学習：ア. ゲームや歌、ロールプレイを通じて楽しく学ぶ。イ. 実生活に関連した活動を取り入れる。②視覚教材の活用：ア. 絵カードやビデオを使って視覚的に学ぶ。イ. デジタル教材を活用してインタラクティブな学習を促進する。③協働学習：ア.

ペアやグループでの活動を通じてコミュニケーション能力を育む。イ. クラス全体でのディスカッションや発表を行う。④反復練習：ア. 繰り返し練習することで定着を図る。イ. フラッシュカードやリズムを使った練習を行う。⑤基本的なコミュニケーション能力の育成：ア. 簡単な会話や日常的な表現を学ぶ。イ. 英語の音声やリズムに慣れ親しむことを重視する。

これらの方法を通じて、子どもたちが英語を使って自分の考えや気持ちを表現できるようになることを目指している。

### Ⅲ 台湾の小学校訪問

#### 1 訪問の目的

以上のことを踏まえて、台湾の小学校訪問により英語教育の現状を観察、分析、また指導者との対話によってその特徴を理解し、日本の小学校英語教育への示唆を得たいと考えた。特に以下の点について興味をもって訪問することとした。

- (1) 授業は、小学校ごと、学年ごとにどのような工夫がされているか。それは、「十二年課程綱要」に示された目標や指導方法を意識したものか。
- (2) どのような教科書をしようしているのか。また、教科書以外の教材は、どのようなものを使用しているのか。
- (3) 指導者の英語力、英語指導力を高めるためにどのような研修をしているか。

#### 2 訪問時期

2024年2月26日(月)から3月1日(金)まで

#### 3 訪問場所

- (1) 台南市A小学校
- (2) 台南市B小学校
- (3) 台北市教員養成C大学

#### 4 調査方法

- (1) 小学校訪問、授業参観について
  - ア. 学校の概要、カリキュラム(学年による週当たりの授業時数、使用教科書など)について説明を受ける。
  - イ. 授業を参観する。参観に際しては、ノート記録とビデオ記録をする。
  - ウ. ノート記録に基づいて、疑問に感じたこと、意図がよくわからなかったことについて質問を極力授業直後にする。
  - エ. 後日、ノート記録とビデオ記録の見直しによって、各授業の特徴について表にまとめる。

項目は、①No.②授業学年③授業者④科目⑤テーマ⑥具体的な内容⑦授業の特徴⑧優れた点・疑問点・提案⑨その他である。

(2) 教員養成大学訪問について

- ア. 小学校英語の指導者になるためのプログラムについて説明を受ける。  
イ. A小学校、B小学校の授業参観を通して疑問に感じたことも含め台湾における小学校教育について質問する。

## IV 調査結果の概要

### 1 小学校

- (1) 2小学校(A小学校、B小学校)で3日間の訪問で10の授業を参観した。授業参観の学年、学習テーマは表1の通りである。  
やや数に偏りがあるのは、限られた日程の中でできるだけ多くの授業を見たいという要望に応じていただいた。教科としての英語授業と他の教科内容を英語で指導するバイリンガル授業を参観した。
- (2) A小学校では、校長から学校として英語教育への取組について説明を聞いた。また、偶然にC市から来校した補導団(推薦されたメンバーで構成され、英語の指導研究を行うメンバー)と話す機会を得て、英語専科教員の指導力向上のために実施している研修概要を聞いた。
- (3) B小学校では、英語の主担当から学校の目指す英語教育の在り方について説明を聞いた。
- (4) B小学校で授業参観した授業者との懇談の機会を設定していただき、経験や意見を聞いた。

表1 「授業参観学年、授業名一覧」

学年	英語授業		バイリンガルクラス	
	参観数	学習テーマ	参観数	学習テーマ
1	なし		2	・海の動物と亀の体のつくりについて知ろう。 ・私にできることを表現する。
2	なし		1	・算数の立体について学ぶ。
3	1	・時間の言い方に慣れる。	なし	
4	1	・時刻の表現 尋ね方、答え方を学ぶ。 What time is it? It's 00:00.	なし	
5	1	・単純現在形と現在進行形を学ぶ。	1	・健康を保つためにどういう姿勢に気を付ければいだろうか。
6	1	・What do you do after school? go + ing, play を使った表現を学ぶ。	2	・リサイクルを意識して紙づくりを体験しよう。 ・ラグビーボールを使って競争ゲームを楽しもう。英語で応援してみよう。

## 2 教員養成大学訪問について

(1) 責任者をはじめ5人の先生方から、小学校における英語教育指導者になるためのプログラムについて説明を受けた。また、個々の先生方の活動の話を聞いた。

(2) 質問事項として次の点について話を聞いた。

ア. バイリンガル教育を推進することについて、どう考えるか。賛成、反対でも立場の表明をできたらしてほしい。また、これを進めることの効果、危惧されることなどがあれば教えていただきたい。

イ. 多くの小学校が、小学校1年生から英語教育を行っている。この効果、危惧されている点があれば教えていただきたい。

これだけの授業観察と一度の教員養成大学の訪問から、多くのことを語ることは、難しい。これまで、台湾小学校英語の具体については、開隆堂(2013)、笠原(2013)、中岡(2022)などで知ることができるが、その数は決して多くない。今回、2つの小学校の具体的な授業等から台湾の小学校における英語教育の現在の特徴を具体を通して記録することに一定の意味があると考えられる。

## V 結果および考察

主に、授業参観(資料「A小学校、B小学校授業参観記録」参照)を振り返って、特徴的な点とそれに関する考察を述べる。

### 1 1年生から英語の授業が実施されている

2つの小学校(今後別けて述べる場合は、A小学校、B小学校とする)は、小学校1、2年生は、週に2時間「バイリンガルクラス」が実施されている。教科書はないが、別の科目の学習内容を意識して、指導者は教材を作っている。授業No.6では、1年生児童に海の絵を描かせる課題が前時から出されていた。児童は、それぞれの用紙にIsland、Cave、Ferry Boatを書き入れ、クレヨンで彩色もしている。その後、指導者はウミガメの体の部位について英語で説明する。ウミガメの拡大図や鳥などほかの動物との比較のために入念なスライドが作られていてスライドを見ながら児童は学びを深めている。

授業No.7では、1年生児童にI can … I am good at …などの表現に慣れ親しむことを目標としている。スクリーンに「何かをすることが得意な人」の絵が、12分割されたカードによって隠されている。12枚のカードには、1から12までの番号が書かれている。児童はチーム対抗で、取り除いてほしいカード番号を英語で言い、絵の一部からでも何が得意なのかを英語で言い当てることができたら勝ちとなるゲーム形式の活動おこなった。後半、指導者は、9つの活動の絵が描かれたワークシートを配布し“I want to try…”を使ってみようと英語で指示する。具体的には、“Now I can’t dance But I want to try dancing.”と英語で語り掛ける。

児童はほぼやるべきことを理解して言えるようになってくる。

授業 No.2 では、算数の立体にかかわる学習を英語で行う。指導者は、スクリーンに三角形、立方体などを映し出して、“What is this shape?” と語りかける。また、面が face、辺が side、頂点が vertex (複数は vertices、または vertexes) であることを学習するためにスクリーンのその部分に赤丸をしたり、三角錐などの立体を準備したりして児童の立体への理解を深めていった。

これらの授業から 1、2 年生から英語を使って授業をすることが確認できた。内容的にも一定の難度を持ったものである。教科書はないので、指導者のスライドや指導者の作成したプリントなどを教科書に代えている実態が確認できる。

B 小学校では、自主作成教材をテキスト化している。また、家庭学習教材として *Parents-kids Daily English Conversation* を作成・活用している。例えば Book4 Week 8 では、Mom/friend: Are you Okay? Kids: I have a headache. Mom/friend: Let me take your temperature. と会話文が上段にあり、中段には診察を受けている小学生の絵、下段には I can read! と文があり「にこにこマーク」が 20 個ある。一番下には、家族の確認欄がある。家で読んだり、会話練習をしたりすることに保護者もかかわる方策の一つである。Mom の役割が Dad、Taxi driver、Librarian に変わっていく。母親だけでなく、父親も英語学習に関わるきっかけもなっている。

## 2 授業中における英語使用量が豊かである

どのクラスも説明や指示を含めてほとんど英語で授業は進行する。今回の参観では、中国語を使っている場面が 3 種類あることに気づく。1 つ目は、主に英語を指導する指導者ではなくクラス担任などが中国語で指示する場面である。授業 No.6 では、担任が「もうすぐ授業が始まります。準備し席に着きましょう。」と指示している。また同じ担任が児童の描いた絵を写真に撮りながら、「よく頑張った」「上手にかけた」などの声をかけている。授業 No.10 では、担任が新たな準備運動の指示を中国語で行っている。また、主に英語で授業を進める英語ネイティブ教員がゲームの進め方について英語で説明する。その後、担任は児童がゲームスタートの位置についた段階で、ゲームの確認を簡単に中国語で行っている。

一方、中国語を使用する場面の 2 つ目として、主に英語で指導する指導者が中国語を使う場合もごくわずかにあった。その一つ授業 No.4 では、授業の最初に指導者自身が「声が出にくくて体調がすぐれないが、コロナではないので。」という説明を中国語でした。その直後に英語で “I have a bad cold now. I don't have COVID-19.” と英語で言う。そして指導者が、「調子が悪い人にどう聞きますか」と中国語で尋ね “What's wrong with you?” と言うと説明する。すると多くの児童が “What's wrong with you?” と指導者に対して言う。指導者は、“I don't have fever. I have running nose.” と答えるという場面である。英語だけで説明して意図が伝わらず健康面での不安を感じさせたくないという授業者の意図を感じた。

3 つ目も同じく英語で指導する指導者が中国語を使用する場面である。授業 No.4 では、「単

純現在形と現在進行形の違いを学ぶ」ことが本時の課題である。「現在進行形は、be 動詞と一般動詞の後ろに～ing が付くことや、習慣を表す時は、一般動詞だけでよいことなどを中国語で説明する。この際、英語の例を提示し、その違いを“Present Simple”、“Present continuous”と英語で言うてからの説明となっている。授業 No.8 では、“Be healthy”が本時のテーマであり、健康のためにどういう姿勢に気を付ければいいのか、またバックパックの背負い方について何に気を付ければいいのかが学習内容である。説明の中で英語も交えながら、「今日は、よい姿勢と、悪い姿勢について考えていこう」「rounded shoulder、hunchback は、姿勢としてよくない。」「このバックがもう少し高い位置になればよい姿勢になる。」「よい姿勢を保つための練習として頭の上に乗せた本を落とさないように歩く練習をしよう」などの指示は中国語で行われている。この授業での英語による説明、指示が80%は超えていると感じるが、ここは授業内容として大切に伝えておきたいという場面で指導者は、中国語で確認したい気持ちになっているようである。

英語使用量を増やす努力も見られる。児童が中国語でつぶやくと、指導者は、英語に言い直している場面もいくつも確認できている。授業 No.1 では、英語の授業があるのは何曜日の何時から何時までかという話題になった。そこで、指導者が“Please tell me another one. Thursday.”と言うと児童の一部が「Thursday は、何曜日だったかな？」と中国語で言ったため、指導者は、“Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday”と月曜日から言い直して児童に思い出させようとしている。授業 No.3 では、指導者は、このクラスの児童が映っている水泳の様子を映し出して“Go swimming”と言う。児童の一人が、中国語で「自分が映っている。」という発言をすると指導者は、“You?”と写真の一人を指さしている。授業 No.5 では、指導者が牛乳パックを持つ一人の児童を意識しながら児童全体に、“She has this waste. Teacher 00(指導者自身の名前) drinks milk. I finished the milk. How do you do with this waste?”と言う。牛乳パックを持っている児童は、中国語で「リサイクルするところにもっていか、洗って入れ物にする。」と言う。指導者は、“OK. She take it outside for recycling. Or wash it, and put pen in it.”と言い直す。これらは、児童の中国語使用を受けて指導者が英語に言い換えたり、英語で反応したりすることで児童にも英語でコミュニケーションをとる方向へ導く意図を感じる。

### 3 専科教員の活躍

A小学校、B小学校では、すべての英語授業を専科教員が行っている。授業によっては、担任と一緒に指導にあたっていることがある。授業 No.2 では、学級担任は、集中力のなくなっている児童に注意を促したり、配布資料の過不足の調整をしたりしている。授業 No.3 では、担任が授業の成り行きを見守っている。授業 No.6 では、1年生のクラスということあつてか、担任が折々に指示を中国語で行っている。全体に対してしたのは、2回、個別には、励ましも含めてすべての児童に対して1回ずつはしている程度の頻度である。授業 No.8 では、担任が

補助者として、グループ活動などの場面で励まし、助言をしている。授業 No.10 では、体育の時間で学級担任が若い男性教員であることもあってか、専科教員と同程度に指導に関わっている。中国語による発言は、専科教員の5分の1程度である。

文部科学省参考資料(2018)によれば、台湾の小学校は一般に学級担任制だが、現在、英語科の多くは、専科教員が担当している。これは、2001年に小学校に英語が必修科目と導入された。その際に、小学校の英語教員をどのように確保するかが問題となった。そこで台湾教育部は、1999年に専科教員採用試験を実施した。5万人が受験し、合格者約3500人。この合格者のうち、英語技能の研修(240時間)、国民小学校で英語教員となるための教職単位の取得(120時間)、教育実習を1年受けて正式に英語専科教員になったのは、最終的に約2000人であった。

こうして採用された教員も様々な指導法に関する学びを深めている。教育部(1999年)では、「国民小学英語教員の研修カリキュラム」として発音練習、文法練習、会話練習、リスニング・スピーキング練習、小学校英語教材指導法、英語授業の見学と実習、児童の外国語習得、英語発音指導、英語指導計画、英語評価、チャンツと歌の指導などを挙げている。

今回授業参観した10クラスの授業者は、生き生きと授業に臨み、継続的に研修を続けている者が多い。B小学校の専科教員Dは、「自分自身の英語力を高めるために、長期休暇には海外で短期の語学研修に参加している。」と言う。また専科教員Eは、「専科教員であれば、英語の教材づくりに専念できる。一度作ってものを反省に基づいて手直しすること、児童の様子を見ながら実情に合わせて変えていることができる。」と語った。専科教員は、「小学生の中には英語はいやだという者もいる。それは、指導者の指導の仕方とかかわり方の問題ではないかと思う。」とも語った。

日本における小学校英語を専門の教員が教える「教科担任制」にすることで、学級担任の負担を減らし、授業の質を向上させることにつながることを実感する。台湾の教科担任制は、日本でのその実施方法の参考になる点がある。

#### 4 ネイティブ(母語話者)教員の活躍

英語母語話者が指導者として活躍している。授業 No.6 では、カナダ出身の男性教員が主な担当として「海の生き物やカメの体のつくりについて知ろう」という授業を行っている。この授業に関して、スライドづくり、配布プリントづくりをはじめ、授業をほぼ一人で進めている。

授業 No.10 では、オーストラリア出身の男性教員が主な担当として「ラグビーボールを使った競争ゲームをしよう。英語で応援してみよう。」という授業を行っている。準備体操の指示、ゲームの進め方の説明、英語の応援の掛け声などすべて英語で行っている。担任は、準備体操についても、ゲームの進め方についても時折、必要に応じて中国語で語っている。

A小学校では、カナダ人男性1名、アメリカ人男性1名、フィリピン女性1名の計3名が常勤で勤務している。B小学校は、オーストラリア人男性1名、オーストラリア人女性1名、カナダ人女性1名の合計3名が勤務している。

文部科学省(2018)によれば、台湾では、①保護者など民間が資金を出して、ネイティブ・スピーカーを学校で雇用することが多いこと、②2004年から国としてカナダ、イギリス、アメリカから採用を始めたこと、③台湾の英語教員の就職の機会を奪わないために学士以上の学歴、出身国で教員資格を有していることなどを基本的条件としていること、④台湾人の英語教員を支援し、教授法や教材開発等の学習活動の手助けをすることなどが言われている。

A小学校、B小学校ともに上の④に関しては、文部科学省(2024)に示された「ALTは基本的には担当教員の指導のもと、担当教員が行う授業にかかる補助をする。」と文面上の意図は類似している。しかし、A小学校、B小学校におけるネイティブ教員の授業に関する積極的なかわり方は、日本の小・中学校で一般的にみられる授業、あるいは文部科学省(2024)による「文部科学省 mext チャンネル 外国語」に例示されている授業には見られないものである。台湾のネイティブ教員は、授業を進めていくことに深くかわり主体的に指導に関わっている様子がうかがえる。

## 5 ICT 機器の活用

A小学校、B小学校ともに教室前面には、ホワイトボードとコンピュータに接続されたスクリーンが設置されている。そのため、授業者はコンピュータを接続すれば、あるいはメモリースティックを持ち込めば、自作の画像やインターネット上の動画などを比較的容易に視聴することができる環境が整えられている。

具体的活用事例として授業 No.1「時刻の表現、尋ね方、答え方を学ぶ」では、Google Earth を使って、三次元でイギリスロンドンの Big Ben が映し出された。マスコットのペンギンが映りこんでいて、“Where is Penguin? Do you like to take a picture with Penguin?”と指導者が児童に語り掛ける。その後、指導者は、小学校の近くになる名所 Amping Fort も同じように映し出して、クラスみんなで訪問しているような気持ちにさえさせている。

授業 No.2「立体について学ぶ」では、最初正方形が2次元で示される。スライドに△の絵を映し出して“In 2D shape, How about this one?”と尋ねると児童は、“Triangle”と答える。Triangle の文字もスクリーンに表示される。直後に指導者は、“In 3D shape, what is this?”と尋ねると児童は、“Pyramid shape.”と答える。このように授業中における使用頻度や内容に違いはあるが、授業 No.10 体育バイリンガル以外のすべての授業でスライドが使用されている。教員Dは、「最初に作るのは、それなりに時間がかかる。しかし、一度作ると次回からは少しの改善で済ませることができるので思ったより便利で今は欠かせない。」と語っている。また教員Eは、「YouTubeなどで使えるものがないか探すといろいろなものが見つかる。児童も興味を持ってくれるのでありがたい。」と発言している。

授業 No.3「What do you do after school?」では、水泳をしている動画の上に go swimming と書かれている。指導者は、“Don't forget this one. Mm”とmが2つかさなることを指摘する。指導者は、担当するこのクラスの児童が映っている水泳の様子の写真を映し出して“Go

swimming”と言う。自分やクラスメイトが映っているため児童は、集中力を高めている。具体的には、中国語で自分が映っているという発言をすると指導者は、“You?”と写真の中の一人を指さす。指導者は“go swimming. Say together.”と言うと多くの児童が復唱している。

授業 No.9「時間のいい方に慣れる」では、絵本 *What's the time, Mr Wolf?* を活用して時間の言い方に慣れ親しんでいる。YouTube で公開されているこの絵本の読み聞かせ動画を活用している。具体的には、指導者が映像を1ページ分ずつ見せる。指導者は、見せた直後に“What is Mr wolf doing?” “Is Mr Wolf well behaved or naughty?”と児童に尋ねる。このため映像上の絵本の読み聞かせを聞いた後、その読み聞かせ内容(絵の情報も含む)について英語専科教員と児童がやり取りしている形が自然に作り出されている。

もう一つ ICT の活用機会として児童用にタブレットが準備されている。授業 No.1 では、一人1台のタブレットコンピュータが準備され、後半自分の1日の生活スケジュールにいて“I go to school at seven forty.”などと打ち込んでいる。全員がある程度できたところで、児童の作成した画面を前のスクリーンに大きく映し出して、他者と共有している。

授業 No.9「時間の言い方に慣れる」では、全体で読み聞かせと Mr Wolf の一日の生活について全体で確認をする。その後、2名に一台のタブレットが貸し出される。そこには、表2のような画面が表示される。それぞれの枠内の絵や文字は自由に動かすことができるので、正しい配列になるようにペアで相談しながら決めている。正しく並べ替えができたと思ったペアから音読する。音読は一人ずつ行い、タブレットに録音する。この録音は、授業後に指導者が確認する。

表2 「授業で使用されたタブレット上に示された表のイメージ」

時計	時計 7:00	時計 6:00	時計 3:00	時計 9:00	時計 11:00
Wolf の行動の絵	ベッドで起き上がる絵	本を読んでいる絵	幼稚園に行く絵	夕食を食べている絵	昼食を食べている絵
英語の表現	It's time for dinner.	It's time to get up.	It's time to read a book.	It's time for playschool.	It's time for lunch.

『十二年課程綱要』でもデジタル教材を使って、インタラクティブな活動をすること進めている。武藤他(2024)では、台湾の小学校において「児童がインタラクティブな学習体験を通じて AI ツールの効果的な使い方を習得し、技術スキルと問題解決スキルを向上させる」取組を紹介している。文部科学省(2017)では、「児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教材機器などを有効に活用し、児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図ること」としている。こうしたことを考慮すると、A小学校、B小学校の事例は、日本の小学校英語で参考とできる要素を含んだものである。

## 6 英語授業とバイリンガル授業の役割分担

バイリンガル授業が、他の教科と関連付けた内容重視の英語使用を伴う授業である。一方で、A小学校、B小学校では、英語の授業は、文法シラバスで構成されている。

授業 No.1 英語科「時の表現」をテーマとして、“What time is it? It's 00:00.”を学んでいる。前時までに文法の説明はされているので、この時間は、練習をする時間として位置づけられている。

授業 No.3 では、「What do you do after school?」をテーマとして、go jogging、go camping、go swimming、go hikingなどは、go＋一般動詞 ing となること、swimming は、m が重なることなど、いくつかの例を挙げながら帰納的に理解をさせている。

授業 No.4 「単純現在形と現在進行形の違いを学ぶ」をテーマとして、現在進行形は、be 動詞＋一般動詞 ing となること、run の場合は、running と n が重なること、write、dance の場合は、e が取れて、ing を付けることなどが問題を解きながら説明されている。

授業 No.9 「時間の言い方に慣れる。」では、絵本を使って、What time is it? It's 00:00. It's 00 O'clock. It's time for… It's time to … などの使い方を学んでいる。

ある文法事項を学ぶ場合、その文法事項を含んだ様々な活動を行っている。白畑(2019)は、「文法項目や語彙がどのようにコミュニケーションの中で使用されるかを直接教えないという点で批判されることもある」と述べている。渋谷(2013)によれば、一般動詞の過去形、be going to/will を使った未来形、接続詞 when なども教科書で扱われている。今回の調査では、コミュニケーションを意識した使用場面も豊かに準備されている。その一方で、かなり細かなところまで説明があり、ノートに説明事項を毎回整理して書くことで知識が蓄積されることを目指している。また、書くことについてもコンピュータに入力することも含めて盛んに取り組んでいることがわかる。

## 7 ペア、グループ活動による授業への積極的参加

A小学校、B小学校では、ペア活動、グループ活動が頻繁に行われている。授業 No.8 「Be healthy 健康のために」では、バックパックスの正しい背負い方についてペアで確認しあう場面があった。ここでは、互いの姿勢を見合い、タブレットで撮影し合っている。また、猫背にならないために、胸を開く、肩を広げること大切であるという確認をした後に、グループごとに壁を利用し猫背になっていないか確認しあっている。

授業 No.2 「立体について学ぶ」では、大きなテーブルのある特別教室での授業のため、当初から5チームに分かれて座っている。児童からの発言が、班のポイントとなることもあってか、児童は積極的に発言する。また、一人1セットの4色カードをもっており、指導者は、全員に選択肢の中で正しいものを色で答えるよう指示している。具体的には、スクリーンに四角形が示されそれぞれの頂点に色が付けられている。この頂点のことを何というか赤 side 青 angle 黄 vertex 緑 face から選ぶように指示する。全員の児童が黄 vertex を掲げたので、指導者は、“Amazing”と言って全員ができたことに感心し、すべてのチームに100ポイントずつ

加点する。

授業 No.9「時間の言い方に慣れる。」では、「ICT 機器の活用」の項でも取り上げた通り、ペアで相談しながら時刻、動作、英語表現を正しく並べる活動に取り組んでいる。ここでは、ペアになった一方がタブレットを扱うので、もう一方がそれを見守り、多くはないが、指さしで「それは、こちらではないか。」とアドバイスしている様子が確認できる。その後、英文を読み上げる活動もペア順番に行っている。この読み上げは、2人1台ずつタブレットが渡されているので順番に読み上げているが、誤り訂正をする場面が見られない。

授業 No.10「ラグビーボールを使って競争ゲームを楽しもう」では、男女別でクラスを2つのグループとした。不規則な動きをして転がるラグビーボールをグループ全体で意識し、走者にできるだけ素早く渡そうと努力している。また、英語による応援のかけ声は、多くはないが声はかけている。

渡邊(2001)では、ペア・グループ活動によって学習者の活動量が多くなること、互いに聞き合い確かめ合う機会となることが期待されるという。また、ドルニエイ(2005)は、協力する場面では、互いに義務感、道義的責任感が存在し、ほとんど何もしないで、他者の行動の利益を得る「ただ乗り」の可能性が減ることという。一方で、樋口(2017)は、グループ活動には参加できない子どもや相手を過剰に意識したり、普段とは普段とは違うペアとなると相手やメンバーに当たると落ち着かなかつたりという表れをする子どもがいるという指摘もある。辰野(2009)によれば、解決の成功・失敗がグループの成員にかかっているときには、不注意とか軽率グループによって非難されるので、すべての者が注意深く考え、能率的に作業しようとするため動機づけを高めると述べている。また、グループ学習では、そこに含まれる人間間の相互作用の型(協力的、競争的、個人的)が動機づけに影響する。しかも、それは学習課題の種類によって異なるとする。

今回の調査では、ペア・グループ学習に馴染めずにいる児童は確認できなかった。日ごろからこのような活動を頻繁に行っていること、専科教員だけでなく担任が児童の表れをよく観察して支援していることが影響しているのかもしれない。

また、学年により、関連する教科によりペア、5人組、男女別など様々な型がとられており、条件によりこれらの活動に変化を付けていることが認められる。

## 8 バイリンガル教育

バイリンガルクラスというのは、先に述べた通り、2030年より台湾を中国と英語のバイリンガル国家にする政策を打ち出したことで、バイリンガル国家を目指すことも意識して名づけられたものである。政府の政策では、「エリート学生の養成」と「全ての若者の英語のコミュニケーション能力の向上」という2つの目標を掲げている。

白畑(2019)によれば、二言語使用者とした場合、2つの言語を両方とも母語者と同等に使用できる者とする最大定義から2つ目の言語は少しでも使えればよいとする最小定義までの幅が

考えられている。また、子どもの頃からの2言語使用者と大人になってからの2言語使用者をそれぞれ、early (child) bilingual、late bilingual という。

台湾の小学校での英語教育は、early bilingual であり、その目標から簡単な会話、基本的な表現を使って自分の考えや気持ちを表現できるようになることを目指している。2言語使用者の最大定義と最小定義の間を目指していると言える。バイリンガル教育については、バイリンガルサイエンス研究所(2021)は、トーマス バック博士のインタビューから4つのメリットを挙げている。①メタ言語意識：さまざまな言語における言葉の働きを予測しやすく、異なる言語の類似点や相違点を見つけ、より意識的に言語学習に取り組める。②社会的認知：異なる人が異なる意識を持っていることを認識できる。他者の視点を想定し、その行動を予測する能力の習得が早くなる。③実行機能：注意を払う対象を選択し、注意する対象を切り替える能力に優れる。④意思決定：目の前の感情から距離を置くことができ、より理論的な意思決定が可能になる。などである。

A小学校、B小学校ともにすべての授業は、90%以上が英語で行われている。また、英語科以外の授業内容を英語で行っている。

小学校1、2年生は、英語科の授業はないが、A小学校、B小学校は、バイリンガルクラスとして英語で授業を行っている。授業No.2では、「立体について学ぶ」をBilingual Mathと名付けている。数学を英語を使って学んでいる。授業No.6では、「亀の体のつくりについて知ろう。」をカナダ人ネイティブ教員が行っている。授業No.7では、「I have talents.」と題してI can... I am good at ...ing.の表現に慣れ親しみながら、自分のできること、自分のよさについて認識する授業が行われている。

カリキュラム作成に関して学校の独自性が認められているためこのような授業が展開できている。A校長先生は、「英語を聞く、話すという使う経験に基づいて、英語に慣れていることが大切である。小学校3年生から授業をするだけでは、英語に触れる時間が少ないと思う。保護者の早く始めることを望んでいる。そのため本校では、1年生からバイリンガルクラスをしている。」と言われた。

原田(2019)によれば、最近日本でも注目を集めているイメージングプログラムは、バイリンガル教育の一形態である。その具体例として「内容重視の教育(CBI (Content-Based Instruction))」、「内容言語統合型学習(CLIL (Content and language Integrated Learning))」などがある。これは、教科の内容を学習しながら、体系的に言語も学ぶという方法であり、内容中心でいくのか、言語中心でいくのか、その間には無数のバリエーションがある。

A小学校、B小学校の授業における指導者と児童の英語使用率は、断然指導者の方が多く、今回参観した授業は、指導者と児童の英語使用合計を100%とした場合、いずれも70%以上が教師の英語による語りかけ、説明である。A小学校、B小学校ともにBilingual Class と英語クラスがある。Bilingual Classでは、他の教科の内容を学習するために難しい単語が使用される場面がある。授業No.2(2年生)で扱うvertex、授業No.6(1年生)で扱うshell とscuteの違

いなどがその例である。児童はこれらの語彙を理解して、質問に答えたり、クイズに解答したりしているので、児童の受容語彙として学んでいることがわかる。CEFRのCAN-DOリストも文部科学省(2017)日本では、「話す」を2つに分けて「やり取り」と「発表」としている。今回の調査では、児童は「話す」場面よりも「聞く」場面の方が多く、指導者も話すことを促すことがほとんどない。授業 No.10「ラグビーボールを使って競争ゲームを楽しもう。」でEN指導者は、応援をしようと語り掛ける。“While playing, I encourage your spirits. Go go.”と言うのがその場面である。

多くの授業が話すことにこだわらないのは、原田(2019)がいう「年齢相応の教科学習による外国語使用」であり、1年生の算数を外国語で学ぶ場合、その内容は子どもの認知レベルにあっているという。算数の理解は認知的に負荷の高い活動なので、聞いて学習内容を理解することが多いバイリンガルクラスでは、話すことにこだわりはないということかもしれない。

C大学教員に、教員養成の立場から大学教員はこの動きをどう考えるか意見を求めたところ、こうしたバイリンガル教育に対応できる教員の養成を図っていること、現職教員でも長期休みにオーストラリア、フィリピンなどの英語使用国に短期で英語研修に自費で行く教員もいることなどが確認できた。一方で、内容重視のbilingual教育を実施する際にその教科の専門性を高めなくてはならないので、学習内容は難しくなる高学年におけるバイリンガル教育を行う指導者の力量形成をどのように図るかは課題となっている。S教授は、「私の専門である音楽について英語で講義することはできるけれど、小学生とはいっても他の教科を教えることは大変難しいと思う。」と言われた。

授業 No.2「立体について学ぶ」では、世界の国々の建物の形に注目して立体を意識して各国特有の建物を描く活動をする。指導者は、北極地帯では、イグルー、インドネシアではボートハウス、モンゴルのユルト、日本の三角屋根の木造建築が紹介される。その説明で「日本は雪が多いから屋根は斜めである。」「モンゴルでは、毎日移動する。」という指導者の説明は十分ではないのではないのか。内容に関してどこまで教えるべきかは、難しい課題であり、専科教員に様々な教科に関してどこまで専門性を高めるべきなのかは、今後議論されるべきである。

## V おわりに

2つの小学校における10の授業参観だけで台湾の小学校英語教育は、このようであると語ることはもちろんできない。しかし、学校や先生方と児童の努力に敬意をもって、これらも台湾における英語教育の一面であるということ記録することにした。

今回の授業参観から、①1年生から英語教育の実施、②授業中における豊かな英語使用、③専科教員の活躍、④ネイティブ(母語話者)教員の活躍、⑤ICTの活用、⑥英語授業とバイリンガル授業の役割分担、⑦ペア、グループ活動による授業への積極的参加、⑧バイリンガル教育への意欲を持った取組などが明らかになった。これらの中で、各学校の設備の拡充や専科教員

の指導力向上のヒントとなることが感じられる。

今回は、台湾南部の都市での調査であったが、建内(2007)の大都市、地方都市、離島の教育格差の記録などから台湾の他の地域の小学校の英語教育に実態についても調査をしたいと考える。また、東南アジアの英語教育を先進的に進めているマレーシア、韓国、ブータンなどの小学校英語教育について、英語としての指導、英語を使って内容を学ぶバイリンガルなどさまざまな取組について実態を調査したい。

## 謝辞

この調査のために学校のご紹介の労をとってくださった北陸学院大学副学長中島健介先生、台湾文化事務所林育柔文化教育課長様、訪問を温かく受け入れていただいた臺南市安平區西門實驗小學、臺南市東區崇明國民小學、台北市立大学の先生方をはじめご協力いただきました皆様へ感謝申し上げます。

## 参考文献

- イーオン(2019)。「現役小学校教員を対象とした『小学校の英語教育に関する教員意識調査2019』を実施 新学習指導要領の下、小学校英語の教科化・早期化スタートまで1年を切った現状について調査」  
[https://www.aeonet.co.jp/company/information/newsrelease/pdf/aeon\\_190902.pdf](https://www.aeonet.co.jp/company/information/newsrelease/pdf/aeon_190902.pdf) (2024年7月1日確認)
- イーオン(2021)。「イーオン、全国現役小学校教員を対象に『小学校の英語教育に関する教員意識調査 2021 夏』を実施コロナ禍で導入2年目に入った、小学校での英語教育の実態を調査」  
<https://www.aeonet.co.jp/company/information/newsrelease/1909021516.html> (2024年7月1日確認)
- ユウコ・ゴトウ・バトラー(2005)。「日本の小学校英語を考える：アジアの視点からの検証と提言」東京：三省堂
- バイリンガルサイエンス研究所(2021)。「Thomas Bak 博士インタビュー(後編)～バイリンガリズムのメリット～」  
<https://bilingualscience.com/english/thomasbak%e5%8d%9a%e5%a3%ab%e3%82%> (2024年8月8日確認)
- ゾルダン・ドルニェイ著・米山朝二・関昭典訳(2005)。「動機付けを高める英語ストラテジー35」東京：大修館書店
- Economist Intelligence Unit (2021)。「Asia in 2021 - Economist Intelligence Unit」  
<https://www.eiu.com/n/asia-in-2021/> (2024年8月8日確認)
- 原田哲男(2019)。「イマージョン教育について」早稲田大学教育総合研究所監修『東アジア地域における小学校英語教育』東京：学文社
- 樋口忠彦・高橋一幸・加賀田達也・泉恵美子(2017)。「Q&A 小学英語指導法事典—教師の質問12に答える—」東京：教育出版株式会社
- 本名信行(2002)。「〈事典〉アジアの最新英語事情」東京：大修館書店
- 笠原究(2013)。「英語教育時評 台湾の小学校英語教育」『英語教育』Vol.65-2, 通巻533号, 16.
- 加藤拓由(2024)。「“Heads or tails?”『嫌い』を『好き』に変える小学校外国語の指導」『英語教育』7月号, 13-14. 東京：大修館書店
- 河原俊昭(2008)。「小学生に英語を教えるとは?—アジアと日本の教育現場から」東京：めこん
- 倉本知明(2022)。「台湾少年1・2 [解説]」東京：岩波書店
- 黒木愛・藤木真里佳・南勇輔・湯澤康介(2024)。「[座談会] 小学校の英語の学びで得意なこと / 苦手なことは?」『英語教育』7月号, 8-13. 東京：大修館書店
- Annie Kybler (2003). *What's the time, Mr Wolf?* United Kingdom: Child's Play (International) Ltd.
- 文部科学省(2015a)。「参考資料3 教員養成・研修 外国語(英語)コア・カリキュラム【ダイジェスト版】(mext.go.jp)」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/126/shiryo/\\_icsFiles/](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/126/shiryo/_icsFiles/)

- afieldfile/2017/04/12/1384154\_3.PDF (2024年7月1日確認)
- 文部科学省(2015b).「6. 英語教育における今後の養成・研修について」[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/112/shiryo/\\_icsFiles/afieldfile/2017/03/06/1382682\\_8\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/112/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2017/03/06/1382682_8_1.pdf) (2024年7月1日確認)
- 文部科学省(2018).「台湾における小学校英語教育の現状と課題 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会外国語専門部会(第9回)議事録・配布資料〔参考資料4-3〕(mext.go.jp)」[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/015/siryo/attach/\\_icsFiles/afieldfile/2018/02/21/1400673\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/015/siryo/attach/_icsFiles/afieldfile/2018/02/21/1400673_001.pdf) (2024年7月1日確認)
- 文部科学省(2020).「外国語の指導における ICT の活用について」[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1415043\\_00005.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1415043_00005.htm) (2024年7月1日確認)
- 文部科学省(2021).「『義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について(報告)』概要」[https://www.mext.go.jp/content/20211028-mxt\\_syoto02-000018673-04.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211028-mxt_syoto02-000018673-04.pdf) (2024年8月8日確認)
- 文部科学省(2023).「令和5年度『英語教育実施状況調査』概要(mext.go.jp)」[https://www.mext.go.jp/content/20200911-mxt\\_jogai01-000009772\\_13.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200911-mxt_jogai01-000009772_13.pdf) (2024年7月30日閲覧)
- 文部科学省(2024).「(別紙)文部科学省が一般的に考える外国語指導助手(ALT)とのチーム・ティーチングにおける ALT の役割」[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1304113.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1304113.htm) (2024年7月29日確認)
- 文部科学省(2020).「文部科学省 mextchannel 外国語 小学校の外国語教育はこう変わる!⑤～題材の導入の仕方～」<https://www.youtube.com/watch?v=9oE8ol0Dzfw&list=PLGpGsGZ3lmbCsze5PvMhQ1TS-jXEZKA4f&index=23> (2024年7月29日確認)
- 武藤浩子・渡部昌邦・竹中章勝(2024).「台湾 ICT 教育視察レポート」[https://jnk4.org/jnk4-home/pdf/report\\_20240516.pdf](https://jnk4.org/jnk4-home/pdf/report_20240516.pdf) (2024年7月30日閲覧)
- 中岡望(2022).「『バイリンガル国家』を目指す台湾の英語教育」教育新聞2022年7月4日(月曜日)記事
- 小倉祐一(2006).「台湾における日本語教育と英語教育の現状」『教育実践学研究』第10号, 37-44.
- 齋藤幸世(2021).「台湾の多文化教育における言語の階層化—『十二年国民基本教育』の『本土教育』を中心に—」『関西学院大学社会学部紀要』(137), 97-112.
- 渋谷玉輝(2013).「台湾の小学校英語教科書で導入されている文法事項の分析—日本の中学校教科書と比較して—」『教材学研究』第24巻, 227-234.
- 渋谷玉輝(2014).「台湾における小学校英語の授業展開と児童の反応:竹北市・新竹市の事例から」『小学校英語教育学会誌』14(01), 20-35.
- 白畑智彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則(2019).『英語教育用語辞典』東京:大修館書店
- 立花英裕・橋木芳徳(2010).『いかに21世紀の複言語能力を育てるか:中等教育における外国語』東京:朝日出版社
- 建内高昭(2007).「台湾における小学校英語教育—都市部, 地方都市, 離島における授業観察から—」『愛知教育大学研究報告』(人文・社会科学編)56, 91-98.
- 辰野千壽(2006).『科学根拠で示す 学習意欲を高める12の方法』東京:図書文化社
- 渡邊時夫監修(2001).『21世紀の英語教育を考える 新しい英語の学び方・教え方』東京:ピアソン・エデュケーション
- 山田美香(2011).『公教育と子どもの生活をつなぐ香港・台湾の教育改革』名古屋:風媒社
- 読売新聞社オンライン(2024).「小学校の教科担任制, 3・4年生に拡大へ…中央教育審議会が提案提出の見通し」<https://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/kyoiku/news/20240417-OYT1T50023/> (2024年8月8日確認)
- 吉田真悟(2022).「台湾語と台湾華語はどう違う?」『臺灣書旅 台湾を知るためのガイドブック A Book Guide to Taiwan』134-135. 東京:台北駐日経済文化代表処台湾文化センター
- 游王珮芸・周見信著・倉本知明訳(2022).『台湾少年1・2』東京:岩波書店

添付資料

A 小学校、B 小学校授業参観記録	
No.	1
授業学年	4 年生
授業者	女性 専科教員 担任の先生は教室にいるが違う仕事されている。
科目	英語
テーマ	時刻表現、尋ね方、答え方を学ぶ。What time is it? It's 00:00.
具体的な内容	
<p>○黒板中央にスクリーンがあり、その右側には、言いにくい時刻 20、25、30、35、40、45、50、55 の数字がカードで貼られている。その左側には、Book 4 Level 1 What time is it? と本日のテーマが書かれている。その下に、本日の学習手順が 1 Google Earth/Hopper 2 Numbers/Timetable 3Class Dojo-Record と書かれている。</p> <p>○指導者は、中央にダブルデッカーバスに乗るために教員が集まっている場面と時計が 10 時 30 分を示している絵を映し出し、“They are going to take a double decker bus. Do you know what time is it?”と尋ねる。児童は、“It's ten thirty am.”と答えている。</p> <p>○指導者は、スライドを次のものにする。バスからピクペンを眺めている様子である。指導者は、“Where are they?”と尋ねたが、児童から返答はない。その直後に指導者はピクペンを指さしながら“What is this?”と尋ねると一人の児童が、“Big Ben.”と答えた。</p> <p>○指導者は、“Where is Big Ben? Let's use Google Earth.”と言いつつ、画面を Google Earth に切り替える。一人の児童に前に出てくるように指示し、地図はオーストラリアが中央に示されている。他の児童にヒントを言うように指示し、“Up?” “Down?” “Left?” “Right?”とクラス全体に声をかける。すると数人の児童が“Up” “Left” and Big Ben のある方向を地図上で示すため発言する。</p> <p>○イギリスまで行きつくことができたとところで、指導者は再度“Where is Big Ben?”と言いつつながら、Big Ben という綴り字を入力する。“Is it O.K.? Yes or No?” と語り掛けるが児童から発言はない。</p> <p>○スクリーンに、ピクペンの様子が映し出されると嬉しそうにする児童がいる。</p> <p>○指導者が、前に出ている代表児童に“Do you want to take picture?” と語りかける。児童は、うなずきながらピクペンの時計の部分の写真を撮る。</p> <p>○指導者は、マスコットのペンギンが画面上のどこかにいることを意識して“Where is penguin? Do you like to take a picture with penguin?” と語り掛けると大きくうなづく。ピクペンを背景にペンギンの写真と写真を撮る。</p> <p>○指導者は、“Big Ben is in UK.”と言ってから次のスライドを示す。</p> <p>○指導者は、Book 3-Unit1 How's the weather?と書かれたスライドを示しながら、“Do you remember this story? Where is here?”と尋ねると、児童の数名が“Nara”と答える。指導者は、“Right. Nara is in Japan. Where is Japan?”と尋ねながら、先ほどと同じように</p>	

<p>Google Earth で代表児童が探そうとする。しかし難しいと本人も指導者も感じて別の児童に交代する。他の児童の“Up” “Right”などの助けも借りて Narrat(奈良)を見つけ出すことができた。</p> <p>○指導者は、次に“Where is Amping Fort?” (台南市にある有名な史跡)と尋ねる。児童は、いろいろなことを言い出す。指導者が“Is this next to this school?”と聞くと、“Yes.”と何人かの児童が答える。</p> <p>○指導者は、別に児童を指名する。児童は、前に出てきて場所を探そうとする。指導者は、スクリーン画面の拡大、縮小の方法について“Use two fingers to make it bigger. Or to make it smaller.”と言いつつながら探すの手伝う。</p> <p>○児童は、数字がわかることができ、建物の写真とペンギンの写真の 2 枚を撮る。</p> <p>○指導者は、数字の指導に移る。指導者は、“Where is number?”と児童に語る。黒板の右側に貼られている数字を指さしながら読み上げていく。児童もほぼ同時に数字を読み上げていく。</p> <p>○指導者は、“How is the spell of 20?”と尋ねる。数字のカードの裏に綴り字が書かれている。それを示しながら児童と一緒に綴り字を読み上げていく。児童の何人かは見ないで言っている。8 つの数字の内 5 つの綴り字を言う。</p> <p>○指導者は、中央のスクリーンに時計を示す。その時計は、9 時 35 分を示している。指導者が“What's this?”と尋ねると、児童の何人かが“Clock”と答える。</p> <p>○指導者は、短い針と長い針について“Short hand is hour hand. Long hand is minute hand.”と説明する。続けて“What time is it?”と聞くと児童の多くが、“It's nine thirty five.”と言う。</p>	<p>授業の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コンピュータを上手に活用した授業で児童の集中力がよく保たれていた。</li> <li>○スライドをこのように整えれば、他クラス、次年度も活用ができる。</li> </ul> <p>優れた点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ほぼ指示は、英語で通している。クラスルームイングリッシュが巧みに使われていて、児童もすることが理解できていることが伝わってくる。</li> <li>○数字の復習の活動では、つづりを言わせる。言える人は少ないが、意識は高まるかもしれない。</li> <li>○Google earth の活用は、児童の集中力を高めている。また、世界のいろいろなところに向けて、どこにあるのか、それらがどのくらいの大きいものなのかを立体的に認識することができる。</li> <li>○児童はタブレットの扱いに慣れていて、よく使うことができている。</li> <li>○指導者の英語力が高く、さりげなく児童の間違いをリキャストしている。</li> <li>○最後に“What time is it now?”と聞いたのに対して何人かの児童が“it's ten fifteen.”と答える。一人に児童が It's break time. という。意味が分かかって英語が使える場面。</li> </ul> <p>△この時間にすべてを正確にということはないかとも感じる</p>
--	--

	が、forty, fourteen, seventy, seventeen などの定着は不十分な段階である。 △終末の時間を言う場面では、あまり多くの児童が言えているとはいえない。 ・指名は、コンピュータによるランダム指名を活用している。 ・コンピュータを打たずスクリーンに集中するために手を頭に置くというのは日本でも行われているのか。
その他	

No.	2
授業学年	2年生
授業者	専科教員 女性 担任の先生(女性)が補助教員として指導に参画
科目	生活の中の測量 超連結 Bilingual Math
テーマ	立体について学ぶ
具体的な内容	<p>○グループテーブルが設置された特別教室で授業が行われるため、最初から5グループになっている。</p> <p>○指導者は、中央にはスライドが映る準備がなされホワイトボード左には、2/27という日付と5つのグループ名を書いている。日付を指しながら“What date is it today?”と全体に尋ねる。児童は、机の上にある教材や同じグループになった他の子どもたちとのやり取りにやや気持が向いているためか返答はない。</p> <p>○指導者は“Look at me, Teacher○○(指導者名)”と言い、児童が先生の方を向いたところで“Good morning, everyone.”と挨拶する。児童は、“Good morning.”と元気に反応がある。</p> <p>○指導者は、“Today you will be a little architect. You will build a house. Not today. Before that, you will learn something.”と言う。</p> <p>○指導者は、スライドに口の絵を映し出し“What is this shape?”と尋ねる。児童は、“It is a square.”と答える。画面に Square という文字が表示される。</p> <p>○指導者は、“In Three D(dimension:筆者追記) shape, what will it make?”と児童に尋ねる と“Cube”と大きな声で答える。指導者は、“OK. It is a cube in 3D shape.”と確認する。</p> <p>○同じように指導者は、スライドに△の絵を映し出して“In 2D shape, How about this one?”と尋ねると児童は、“Triangle”と答える。Triangle の文字もスクリーンに表示される。</p> <p>○指導者は、“In 3D shape, what is this?”と尋ねると児童は“Pyramid shape.”と答える。指導者は、“Good job. It is a pyramid shape.”</p> <p>○指導者は、“Let’s review the parts of the cube.”と言いながら、立方体の図をスクリーンに示す。面、角、線の部分に矢印が付いている。“Do you remember this part?”と尋ねると児童は“Side”と答える。その文字もスクリーンに示される。</p> <p>○指導者は、角の部分で示し、“What is this part?”と尋ねる。児童は、“Vertex”と</p>

答える。	○指導者は、“Four sides and four vertices”と言いながら、面を黄色くして“What is this yellow area?”と尋ねる。児童は、“Face”と言う。
○指導者は、“OK. Look at the dice. How many sides for a cube? Let’s count.”と言う。“How many sides?”と2回繰り返す。児童は考えながら考えている児童もいる。指導者は、実物の大きなサイコロを手に持ち、“Will you try? Which team?”と言う。手を挙げたチームが複数あったが、10か12に意見が分かれた。指導者は、“Are you sure?”と言う“Team 2, come here.”と言う。一人の児童を指名して大きなサイコロの side を数えるように指示する。	
○指名された児童は、最初座って数を数え始めるが、指導者は“Can you stand up? Can you stand up?”と繰り返しながら促す。児童は前に出て、大きなサイコロを持ちながら、早口で言おうとする。指導者は、“No, No, one, two, three”とゆっくりの言い方を示して“Try”と言う。児童は、ゆっくりと箇所をさわりながら数えていく。指導者は、“Twelve. Is it OK?”と言うと多くの児童が“Yes”と答える。	
○指導者は、立方体の vertices の数を数えさせようと“How many vertices for a cube? Let’s count.”と言いながら、スクリーンでもこの文字を示す。児童の多くが、“eight”と言う。指導者は、“six, seven, eight? Are you sure? eight?”と言う。指導者は、“Let’s count together.”と言い、スライドの頂点について児童が数を言うごとに数字を表示していく。8であることを確認ができる。	
○指導者は、続けて“How about face? How many faces for a cube?”と尋ねる。児童の何人かは“Six”と言う。指導者は、“Two, four”と言うが、多くの児童が“Six”と大きな声を出す。指導者は、スライドに答えら faces と示す一方で、“Please try.”と言ってから、一人の児童を指名する。児童は前に出て面を指さしながら、“One two three four five six”と言う。指導者は、“That’s right. OK.”と言う。	
○指導者は、ピラミッド絵を示す。“What is this?”と言うと数人の児童が“Pyramid”と答える。指導者は、“How many sides for a pyramid?”と尋ねる。一人に児童が“Seven”と答える。指導者は、“Are you sure?”と言うと、何人かの児童が“Eight”と言う。指導者は、“Let’s count”と言いながら、スクリーンの side の数を数えながら、色を変えていく。8であることに納得がいった様子である。	
○指導者は、“How many vertices for a pyramid?”と尋ねる。多くの児童が“Five”と答える。指導者は、“Are you sure? Let’s count together.”と言って、スクリーンを見ながら数を数えていく。画面上でそれぞれの vertex に数字を振るのでわかりやすい。	
○指導者は、三角錐の模型を示して“How many vertices?”と尋ねる。多くの児童が“Four”と言う。指導者は、一人の児童を指名して前に出て数えるように言う。児童の数え方によって“Four”であることが確認できた。	
○指導者は、“The bottom of this pyramid is triangle.”と言い、スクリーンの四角錐を見な	

から“How many faces?”と尋ねる。児童の多くは、“Five”と答える。四角錐の解法図を示して“*How many triangles? Four triangles. The bottom is a square.*”と確認する。

○It is Fun Time. Please show your answer with color card.”と言いながら、それぞれのチームのカードが籠の中に入っていることを示す。スライドには、赤い紙の上に三角形、青い紙の上に正方形、黄色い紙の上に長方形が示されている。指導者は、“Everybody can get these cards. Hurry up.”と言う。児童は、各自が4種類のカードがあるか確認をしながら整えている。“Are you ready? Raise your hand.” “Team 3, all students are ready. 100 dollars.”と言いながらホワイトボードのチーム3の下に100と表示する。次々他のチームも整えたので、それぞれのチームに100という数字が書き込まれている。

○指導者は、“Teacher say something, please raise your color card.”と言う。スクリーンに四角形が示されそれぞれの頂点に色が付けられている。指導者は、“What are they?”と言いながら、この頂点のことを何とよいか赤 side 青 angle 黄 vertex 緑 face から選ぶように指示する。全員の児童が黄 vertex を掲げたので、指導者は、“Amazing”と言って、全員ができたことに感心する。すべてのチームに100ポイントずつ加算する。

○指導者は、スクリーンに3角形を示し、それぞれのsideに色付けして、“What are these?”と尋ねる、赤 side 青 angle 黄 vertex 緑 face から選ぶように指示する。すべての児童が正解したので、“Very Good!”と言いながらすべてのチームに100ポイントずつ加算する。

○指導者は、スクリーンに立方体を示し、面について“*What is this part?*”と尋ねて、赤 side 青 angle 黄 vertex 緑 face から選ぶように指示する。これも全員が正解する。

○指導者は、スクリーンに2D 三角形を示す。“In 3D, What is this?”と尋ねて、赤 cube 青 circle 黄 pyramid 緑 triangle から選ぶように指示する。一チーム以外は正解する。間違えたチームは赤 cube を選んでしまった。赤カードには三角形が書いてあることに影響を受けたのかもしれない。

○指導者は、スクリーンに立方体を示す。“This is the question. How many faces for a cube?”と尋ねて、赤2 青5 黄6 緑8から選ぶように指示する。これは、すべてのチームが正解する。

○指導者は、スクリーンに三角錐を示す。“How many vertices for a pyramid?”と尋ねて、赤2 青5 黄6 緑7から選ぶように指示する。これは、すべてのチームが正解する。

○指導者は、スクリーンにPut your cards back into the boxと表示する。中国語でカードを箱に戻すようにと伝える。“You are ready, Raise your hand.”と指示し、できたチームに100ポイントずつ書いていく。

○指導者は、スクリーンにMISSIONと表示し、“Now, it’s MISSION Time. Look, Listen”と言う。児童は、“Look, Listen”と繰り返す。指導者は、“Now you are little architect. Let’s build a 3D house.”と言う。指導者は、スクリーンに、建築中の家と複数の建築家の写真を示す。“They are architects,”と画面を指さしながら説明する。スクリーンには、WE

WORK AS A TEAM.と示される。次にスクリーンにAfter building a house, let’s count the number of sides, vertices, and faces.と示し、“How many sides of your house? How many vertices of your house? How many sides of your house?”と尋ねる。“We have a special customer today. Doratemon. スクリンにDoratemon likes to travel around the world. と示し、“Doratemon likes to travel around the world. Doratemon wants to order 5 types of houses in 5 countries.”と語る。スクリーンに地球の写真を示しながら、“Where is it? This area is white. It’s very cold.”と尋ねる。一人の児童が“pole”と言う。指導者は、北極ぐまが水の上にいる様子を示す。Polar bear, icebergと書かれている。“THE NORTH POLE”と書かれ、サンタクロースの写真を見せ、スクリーンに示す。指導者は、“Sky together, the North Pole”と言うと、児童も繰り返して言う。指導者は、“What is the type of house in the North Pole?”とスクリーンに示しながら語る。igloo の写真も示す。“What the shape of igloo? Look at the picture in your box,”チーム4のテラブルにiglooの写真があったので、指導者は、チーム4に対して“*Congratulation. Your team is igloo.*”と言う。

○指導者は、“Indonesia. The climate is hot and rainy all year around.”とスクリーンに表示し、説明していく。“What is the type of house in Indonesia?”とスクリーンにされる。一人の児童が、“Boat house”と言う。指導者は、“That’s right.”と言いながらその写真をスクリーンに示す。“You can see the roof. The floor side is up.”と説明しながら、中国語でも同じことを説明している。その直後にこの写真の入っていたチームに対して、“If you have boat house picture, raise your hand. OK, Team 2. Congratulations!”と言う。

○指導者は、日本の富士山の写真をスクリーンに示すと児童は、“Japan”と言う。指導者は、“Where is Japan?”と言いながら、アジアの地図をスクリーンに提示する。続けて一人の児童を指名し、スクリーンの地図上で日本を指さすように指示する。児童は、日本を正しく指さすことができる。指導者は、“That’s right. This is Japan.”と言う。指導者は、“What is the type of house in Japan?”とスクリーンに示しながら語る。スクリーンにJapan Pitched roof houseと提示する。続けて、“Why is the roof pitched?”と児童に尋ねる。児童の一人が中国語で雪が多いのでという。指導者は、リキャストして“*Oh snow. It is for snow. The snow fall down easily.*”と言う。続けて、白川郷集落の写真を提示する。児童は、中国語で雪のために屋根が三角になっていると複数の発言がある。指導者は、英語で“it’s steep.”と言う。指導者は、“Who has the Japan picture?”と尋ねる。一つのディレイヤーがそれであると確認できた。

○指導者は、シンガポールのマールイオンと建物の写真をスクリーンに提示する。指導者は、“What country is this? Yes, Singapore. Could you say Singapore, Singapore.”と言う。児童は“Singapore.”繰り返す。指導者は、マールイオンを指さしながら“*Do you know the lion?*”と尋ねる。児童からは答えがない。指導者は、“Merlion”と言い、続けて、高層の建物の写真と Sustainable Designed Green Building in Singapore と書かれたスライドをスクリーンに映し出す。緑で覆われたビルディング全体を示して中国語でペランダなど

	<p>で、すべての住民が植物を育てていると説明する。“It is cool.”と言いつながらそよ風が吹くジュエスチャーをする。また、シンガポールの大学の写真と Plant trees. Solar panel design と書かれたスライドを映し出す。中国語でこの絵の下に建物があり、温度が上がらないように工夫されていると説明する。児童は、反応しながら熱心に聞いている。</p> <p>○指導者は、モンゴルの地図を示す。続けてバオの写真と Dry and less rain Move from place to place → Easy to move → Access to water と書かれたスライドを映し出す。</p> <p>“Mongolia. Move from place to place. One day we live here. Next day we move here.”と一つのグループのテーブルから別のテーブルに、また別のテーブルに移っていくということとジュエスチャーで示しながら説明する。続けて“What is the type of house in Mongolia?”とスクリーンに示しながら語る。続けて Mongolia Yurt と書かれたスライドを映し出す。</p> <p>○指導者は、“Now it's your turn.”と言って“House design drawing Before building a house. Let's design the house on the poster.”と書かれて下に2つの例が示されたスライドを映し出す。“Before building a house, please draw the house. Please draw in five minutes.”と指示する。児童はそれぞれのグループでポスターを広げて描き始める。中心になって描く児童と見守っている児童、ただ黙って座っている児童もいる。</p> <p>○授業終了のチャイムが鳴る。指導者は、“OK. One more minute.”という。児童は集中して取り組んでいる。指導者は、“Attention, please. Write your name.”と絵に、チーム名、メンバー名を書くように指示する。</p> <p>○時間になったので挨拶は特にしないで、できたチームから終わりとなる。</p> <p>授業の特徴 ○ほぼすべての内容を英語で説明している。スライドに比較的難しい語彙も含めて提示され、それに基づいた説明が口頭でなされている。</p> <p>○途中クイズ形式でグループごとに競い合っている場面や最後にはグループで絵を描く活動があるので、児童は熱心に授業に参加していた。</p> <p>○各児童が4枚のカード（ラミネート加工済み）を持っている。数学立体に關する3択、4択に質問がされてそれに対してカードで答える。グループ別得点制なのでグループ内でお互いに教え合う雰囲気ができている。</p> <p>○外国の気象条件や生活条件の違いをどこで家の建築の違いがある。そこをどとを理解したうえで、グループ別にある国の家を指定されてその絵を描き、sides, vertex, vertices, face の数を確認する活動に至る。</p> <p>優れた点 ○指導者は、児童が回答するたびに“Good job.”などの英語を使いほめていく。</p> <p>○復習におけるスライド活用は効果的。</p> <p>疑問点△ △これが算数の図形の勉強にどうつながるのか単元の計画を教えていただくべきだった。</p> <p>提案？ ○グループごと描く時間は、絵の得意な児童、積極的な児童が活動する時間？グループごと描く時間は、他の児童はどういう役割を意識すればいいのか、チーム名になっている。</p>
--	--

<p>書く児童、国名を書く、色と塗る児童などの役割分担は思いっつけければいい。</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・vertex の複数形は、2つあり、vertices, vertexes であるが、この授業では、後者を紹介している。</li> <li>・児童がそれらの文字を読み取れているか、いないのかわからなかった。</li> <li>・担任の先生は、聞く姿勢の良くない児童などに時おり声をかけたり、ジェスチャーで注意を促したりしている。細やかな指導もこのクラスの授業への集中力を高めている。</li> </ul>	<p>No. 3</p> <p>授業学年 6年生</p> <p>授業者 専科教員 女性 担任が見守っている。</p> <p>科目 英語</p> <p>テーマ What do you do after school?</p> <p>具体的な内容</p> <p>○指導者は、前面ホワイトボードの左には、Today's Agenda 1 Review Unit 1 Vocabulary 2 Booklet 3 Sentence pattern 4 H.W. Review Unit 1 quiz と書いている。これを口頭で読み上げている。3については、“What do you do after school?”と付け足しながら説明する。</p> <p>○指導者は、“What is the month?”と尋ねる。児童が“February”と言う。指導者はFebruary と書かれたカードをホワイトボードに貼る。続けて“What date of the week is it today?”と尋ねる。“Monday”“Tuesday”また、一人の児童が“February March”と言う。“March?”とにこやかに問い返す。指導者は、“Tuesday”と言いつながらそう書かれたカードを貼る。続けて“What date is it today?”と尋ねると“twenty seventh”と答える。</p> <p>○グループごとに発言回数がポイントして加算されることがホワイトボードの左下に書かれている。それを読み上げる。“Group 1 eleven, Group 2 eight, Group 3 nine, Group 4 four, Group 5 eight, Group 6 five.”続けて“Tomorrow kindergarten children come here, 00kindergarten (幼稚園名) children come.”と語る。指導者は、あらかじめ天気絵で示したカードをホワイトボードに貼る。その直後に、“OK. How's the weather?”と言いつながら、天気(曇りの絵、「晴れの絵」に触れながら“Cloudy? Sunny?”と尋ねる。外を確認する児童もいて、“Cloudy”と答える。指導者は、月、曜日の書かれたホワイトボードの近くにその絵を貼る。</p> <p>○指導者は、ホワイトボードを左右に開いて中央のスクリーンが見えるようにする。スクリーンには、女性の本を読んでいる絵と、Good morning! Welcome to our wonderful class Unit 1 と書かれている。</p> <p>○指導者は、男性がジョギングしている動画を示しながら“What is he doing?”と尋ねる。</p>
--	---

<p>加えて“look at Book P.7.”と関連語の出ている箇所を説明する。指導者は、“Say together.”と言うと児童は、“Go jogging.”と言う。指導者は、“Remember two g here.”と綴り字についても話す。指導者は、別のジョギングしている動画を映し出して“go jogging.”と言うと児童は繰り返す。指導者は、“go jogging. Say together.”と言うと先ほどより多くの児童が繰り返す。</p> <p>○指導者は、湖の近くでテントを張っている写真を示しながら“Go camping”と2つのチームに答える。指導者は、“OK. Go camping. Have you ever been camping?”と尋ねる。特に返答はない。“Remember ing here.”指導者が、“go camping. Say together.”と言うと児童が繰り返す。</p> <p>○指導者は、泳いでいる絵を示しながら“What is he doing?”と尋ねる。児童は、“go swimming”と答える。水泳をしている動画の上にgo swimmingと書かれている。指導者は、“Don't forget this one. mm”とmが2つ重なることを指摘する。指導者は“go swimming. Say together.”と言うと児童の声は聞こえない。指導者は、このクラスの児童が映っている水泳の様子の写真を映し出して“Go swimming”と言う。児童は、集中力を高め試みる。中国語で自分が映っているという発言をすると指導者は、“You?”と写真の中の一人を指さす。指導者は“go swimming. Say together.”と言うと多くの児童が復唱している。</p> <p>○指導者がハイキングしている絵をスライドに映し出すと“go hiking”と何人かの児童が言う。指導者は、山をハイキングしている動画を見せながら“Have you ever been to mountains go hiking?”と尋ねる。2名の児童が挙手する。指導者は、“Really?”と興味深そうに尋ねる。指導者は、5名の児童を指名して“Have you ever been going hiking?”と尋ねる。答えは、“Yes”, “No”とまちまちである。</p> <p>○指導者は、ピアノを弾いている写真を示しながら“What is she doing?”と尋ねる。児童は、“play piano”という。指導者は、“Play the piano. Playing the piano.”と言いなおす。“Play the piano. Say together.”と言う。スライドの文字は、the が青く示されている。</p> <p>○指導者は、バスケットボールをしている絵をスライドに映し出す。何人かの児童が“play basketball”と言う。“Play basketball. Say together.”と言う。指導者は、知っているチームのバスケットボールをしている様子をビデオで示す。児童の集中力が高まる。</p> <p>○指導者は、焼き立てクッキーの写真を示し、“What is this?”と尋ねる。何人かの児童が“Cookie”と言う。“bake cookie”と言う児童もいる。指導者は、“bake cookies”と言う。その後、指導者は、小さな子どもたちがクッキーの生地を練っている様子の動画、クッキーが焼きあがった様子の動画を見せながら、“bake cookies. Say together.”と言う。児童は、繰り返す。</p> <p>○指導者は、Bookletを使って個人で英語学習ゲームソフトに取り組みように指示する。 ①問題と答えが個人のデバイスにでる→②正解→③宝箱を開く→④お金を稼ぐ(失う場合もある)のが基本の4ステップ 指導者は、時間設定をしてゲームの開始を宣言する。</p>
--

<p>児童は高い集中力で取り組んでいる。指導者は、成績の良い人の状況がスライドに示されるので、“00 (児童名) is doing well. “Seven minutes are left.”など全体に気を配っている。指導者は、“Time is up.”と終わりを宣言して、スライドに順番が示される。“Please give the pads back.”と指示する。</p> <p>○指導者は、預かっていたノートを各自に返却するように指示する。係の児童が配布する。</p> <p>○指導者は、“OK. What do you do after school?”と質問し、その答えをノートに書くように指示する。ホワイトボード右側は、Take notes と上段に書かれている。指導者は、その下に Date 2/27, Unit 1 と書いている。それに続けて、“Q: What do you do after school?” 放課後と中国語で書き加える。続けて A: I _____ after school. と書き加える。</p> <p>○続けて“For example,…”と言いながハイキングの絵を指示する。一人の児童が“I go to hiking.”と児童が言うのに対して指導者は、“No. I go hiking.”と言いなおす。チャイムが鳴ってここで終わりになる。</p> <p>授業の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○スライドを静止画、動画、またこのクラスの児童の活動する写真と良く準備して児童の集中力を高めるための工夫がされている。</li> <li>○コンピュータゲームによって今日の目標とする表現を練習させるのは、児童の集中力を高めるうえではとても効果的である。</li> <li>○ノートも毎回整理して書いていくので1年間の学びを振り返ることができる。</li> </ul> <p>優れた点○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いろいろなパターンが示される。 go jogging, go camping, go swimming, go hiking, play the piano, play basketball, bake cookies.</li> </ul> <p>疑問点△</p> <p>提案?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コンピュータゲームで競い合うことは、6年生にとっては刺激的な様子。集中力を高めてほぼ全員が取り組んでいた。</li> <li>○ノート配布などは、児童が手伝ってくれ。その間に、授業者は次の活動の段取りを確認している。</li> <li>○最後に言うところで定着していなかったことがあった。ゲームは文字で打つことで最後のまとも書かせることではあるが言えていないことも明らかになったので話す活動をどう組んだらいいか、「話す」「書く」のバランスをどうとらえたいかが工夫のしどころかもしれない。6年生なので難しと思うが、</li> </ul> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任は眠そうな児童を1度注意していた。</li> </ul>
---

No.	4
授業学年	5年生
授業者	英語専科教員 女性
科目	英語

テーマ	単純現在形と現在進行形の違いを学ぶ
具体的な内容	<p>○指導者は、今日は体調がすぐれない、でもコロナではないということを中国語で伝えている。"I have a bad cold now. I don't have COVID-19." 指導者が、調子が悪い人にとど聞きますかと中国語で尋ね"What's wrong with you?"という説明する。すると多くの児童が"What's wrong with you?"と言う。指導者は、"I don't have fever. I have running nose."と答える。</p> <p>○指導者は、スライドに絵とその絵の動作を示す動詞、その動詞の ing 形を示し、"Just review. Can you read it."と尋ねる。児童の何人かは、"Cook Cooking"という。指導者がスライドに"What is he doing? He is cooking."と表示すると、自ら読んでいく。</p> <p>○指導者は、ダンスをしている絵と dance dancing と書かれたスライドを、その直後に dancing の部分が What is he doing? と書かれたスライドを提示する。児童は、"What is he doing? He is dancing."と大きな声で言う。指導者は、"Good."とほめる。</p> <p>○指導者は、本を読んでいる絵と read reading と書かれたスライドを、その直後に reading の部分が What's he doing? と書かれたスライドを提示する。指導者は、"What's the part are you doing?"と尋ねる。児童は、"What's he doing? He is reading a book."と大きな声で言う。"Good."とほめる。</p> <p>○指導者は、勉強している絵と study, studying と書かれたスライドを、その直後に studying の部分が What's he doing? と書かれたスライドを提示する。児童は、"What's he doing? He is studying."と言う。指導者は、"Good."とほめる。</p> <p>○指導者は、寝ている絵と sleep sleeping と書かれたスライドを、その直後に What's he doing? と書かれたスライドを提示する。児童は、"What's he doing? He's sleeping."と言う。指導者は、"Good."とほめる。</p> <p>○指導者は、書いている絵と write, writing と書かれたスライドを、その直後に What is she reading? と書かれたスライドを提示する。児童は、"What is she doing? She's writing."と言う。指導者は、"Good."とほめる。</p> <p>○指導者は走っている絵と run, running と書かれたスライドを提示する。そして "What's the difference?"と尋ねると児童は、"m"と答える。指導者は、"short vowel and consonant"と英語で言ったのに続けてこういう場合は、最後の文字を 2 回重ねると中国語で簡単に説明する。指導者は、running を What are you doing? と変える。児童は、"What are you doing? I'm running."と言う。</p> <p>○指導者は、2 人が縄跳びをしている絵と jump, jumping と書かれたスライドを提示する。指導者は、"Only one p. Why?"と尋ねる。Jump は、短母音だけれどそのあとに子音があるために p を重ねることはない和中国語で説明する。指導者は、jump を What are you doing? と変える。児童は、"What are you doing? We're jumping rope."と指導者の助けを借りながら言う。</p>

<p>○指導者は、ここまで学習した cooking, jumping, sleeping, studying という語とその写真を上段に下には I am _____, He is _____, She is _____, Jenny and Dan are _____ と書かれたスライドを提示する。</p> <p>○指導者は上のスライドの文を指さしながら、"Can you make sentence?"と指示する。児童は、声をそろえて、"I am cooking. He is jumping. She is sleeping. Jenny and Dan are studying."と言う。</p> <p>○指導者は、中国語で現在進行形は、be 動詞と一般動詞の後ろに ing が付くことを確認する。</p> <p>○指導者は、Writing, dancing, running とその写真を上段に、下段には、write → writing, dance → dancing, run → running と書かれたスライドを提示する。</p> <p>○指導者は、"There are three words to notice. Write and dance. You have to take off 'e'." Run. Double 'n' is here. Can you write it on your notebook."と指示する。</p> <p>○児童は、テキスト p.27 の書き込み部分に動詞の ing 形を書き込む。</p> <p>○指導者は、児童の書いている様子を見ながら"Good."と声をかける。○指導者は、"Have you done? Raise your hand?"と言って、全員がノートを取り終わったことを確認する。</p> <p>○指導者は、黒板に swim と書く。"Should we write m again? Yes or No?"と言う。多くの児童は、"Yes"と答える。指導者は、swim の i に丸をつけて、"Short vowel and consonant, so double m."と説明する。</p> <p>○指導者は、前回学習した物語のスライドを提示する。物語を児童の一人が描いた絵である。その絵を見ながら"One of you drew this picture. My dog is sleeping. My brother is playing soccer. I will ask you two questions. What are Grandma and Grandpa doing?"と尋ねる。児童の何人かが、"They are dancing."と答える。指導者は、"What is my brother doing?"と尋ねる。児童は、"He is playing soccer."と答える。指導者は、"What is the dog doing?"と尋ねると、児童は、"The dog is sleeping."と答える。</p> <p>○指導者は、テキストを開くように指示する。"Present simple."と言ってから、黒板の左に Present Simple と書く。What do you do on Friday?は、習慣を表すので一般動詞だけでよい。I go to bed at 10:00 every day.がその例であると中国語で説明する。そして、I go to bed at 10:00 every day.と板書する。その後、黒板右に、Present continuous now I am writing now.と板書する。</p> <p>○指導者は、ノートをとるように中国語で指示し、少しして、"Finished? Raise your hand."と確認する。児童全員が拳手する。指導者は、"OK. Everybody, say. Present simple."と指示する。児童は、繰り返す。指導者は、"Present continuous."と続けて言う。児童も繰り返す。</p> <p>○指導者は、"I tell you a sentence. Please say Present tense or Present continuous. I brush my teeth every day."と指示する。何人かの児童は"Present simple"と答える。</p> <p>○指導者は、続けて"I'm running up."と言う。児童の何人かは、"Present continuous."と</p>
--



○指導者は、ワークシートを配布する。指導者が、“Who can help me?”と言うと複数の児童が挙手してくる。指導者は、eat breakfast, meet go to work, jumper, get dressed, sofa, brush my teeth, talk, wake up, sit と書かれ、絵も示されたスライドを提示する。習慣として自分ができることをこれらの単語も使って書くように指示をしている。	
○指導者は、再度上の単語を読み上げる。“Have you done?”と言うと“Yes”“No”と言う反応がある。一人の児童を指名すると、児童は“I wake up very early morning every day.”と言う。指導者は、“Very good”とほめる。	
○指導者は、続けてワークシートの第2問題を確認する。ここは、文が正しいか間違えているかを判断する問題である。答えが全部あっていった児童に手をあげるように指示する。教人が挙手する。指導者は、“Very good”とほめる。	
○指導者は、続けてワークシートの第3問題を確認する。“Let you see the time at the end of the sentences.”と言いながら、時間表現の部分を赤く囲んでスライドを提示する。指導者は、“everyday, now, every week…”と読み上げていく。指導者は、中国語で現在の進行形には、be 動詞が必要であること、一般動詞を ing に変化させることを確認する。	
○指導者は、現在形の場合、主語が三人称である場合は、s が付くことを中国語で説明する。一部 singular plural などは英語も交えて説明する。	
○指導者が、“Are you done?”と尋ねると一人の児童が“Yes.”と答える。指導者は、“Wow. You are so quick.”と言う。	
○続けてワークシートの第4問題を確認する。絵を描いて現在形の文と、現在進行形の文を作るように指示する。“I will collect your paper after class.”と言う。	
○指導者は、フォニックスのビデオを見せる。その前に黒板に mat mate と書き、mat は short vowel だが、mate は最後に e が付くので long vowel になると説明する。a-e ai oy と板書する。	
○ビデオは、ape and snake bake cake Grape ape bakes a cake. などの語彙が物語のように紹介されている。	
○指導者は、フォニックスの練習問題を示す。Cane, cave, gate, lake, plane, race, rake, skate, snake, wave など。指導者は、“Color with your pen, and write the words.”と指示する。	
○指導者は、作業をしている児童の様子を見ながら時間になったので終了する。	
授業の特徴	○単純現在形と現在進行形について文法的に要点を書き、説明をする。 ○たくさんの例を示して帰納的に理解を深めようとする考え方がうかがえる。
優れた点	○British Council などで作った教材を適切に使っているので、児童も興味を持っていく様子である。同時にネイティブの音声を聞く機会にもなっている。 ○繰り返し文法説明と練習が組まれている。興味を持つようなビデオやテ

疑問点△ 提案?	クニックなので飽きることなく児童は、学習に臨んでいる。 △フォニックスの指導は学校全体で計画的に進めているのか、先生ご自身の力量によることなのか。
その他	・コロナではないという冒頭の説明が今目的である。
No.	5
授業学年	6年生
授業者	専科教員 女性
科目	Bilingual Class 古堡新視界 (小学校のある地域の名前) Bilingual Local History
テーマ	リサイクルを意識し、紙づくりを体験しよう。
具体的な内容	○指導者は、“Good afternoon, everyone.”と挨拶する。児童は、“Good afternoon, Teacher 00. (指導者名)”と声をそろえて言う。 ○指導者は、前回の復習を始める。“Last week, we learnt SDG’s trial. In 2020, Tokyo Olympic, Japanese use the recycled staff to make a medal.”と語り掛ける。 ○指導者は、リサイクルしてメダルを作る過程を示したビデオを見せる。指導者は、見せながら“The artists try to design. It’s cool. It’s beautiful. All Japanese work together to make Olympic Games perfect. So beautiful. Very nice. Use recycled cellphone or computer or everything.”と語る。 ○指導者は、2024年パリオリンピックについて語る。“Now, 2024 Olympic Games, this year. Please guess what materials to make medals. They speak French. I don’t understand. Just watch it. Stop there. Can you guess? Where?” ○指導者は、クッキーを取り出し、ここにこししながら、“Cookies, Can you guess?”と言いながら一人に児童を指名する。その児童はわからなというジェスチャーをしたため、指導者は、“No,OK.”と言って全体を見渡す。別の児童が“Trash”と発言する。指導者は、クッキーをその児童に手渡しながら“Trash. A kind of garbage. Thank you.”と言う。別の児童が、“make (聞き取り不可)”と言う。聞き取れなかった指導者は、“Say it again.”と言う。指導者は、もう一度言い直した児童の言葉を受けて、“OK. It’s a nice guess. Thank you.”別の児童が、“Plastic”と言う。指導者は、“Anyway, good guess.”と言う。“Anybody want to guess. It’s OK, if it is wrong. No? No? No?”とにこやかに全体に声をかけた後、“The answer is the waste iron from the tower. They use the metal to make medals for 2024. This part is from the tower.”と正解を説明する。 ○指導者は、ごみの中でどうしたらいいだろうかという表情のご自身の似顔絵と How do you deal with waste? と書かれたスライドを提示する。そして“How do we or you deal with

<p>waste? This is me. These are garbage. These are waste. How will you do with these waste?"と語る。</p> <p>○指導者は、いろいろな種類のゴミの入ったバッグをもってきて、"Please take one."と言う。その児童は、牛乳パックを取り出す。"Please show it to everyone."と言ってその児童を立たせる。"She has this waste. Teacher 00(指導者名) drinks milk. I finished the milk. How do you do with this waste?" 児童は、中国語でリサイクルするところにもっていくか、洗って入れ物にすると言う。指導者は、"OK. She take it outside for recycle. Or wash it, and put pen in it."と言い直す。</p> <p>○指導者は、"Who want to try?"と言いがちながら入ったバッグを掲げる。別の児童は、卵ケースを取り出す。指導者は、"What is this? Egg box?"と言う。児童は、"for plant"と言う。それを受けて、指導者は、"Oh, you put soil and seed, and grow it."と説明する。</p> <p>○指導者は、別の児童に取り出させる。児童が紐を取り出したのを確認して、指導者は、"Oh, string. What should we do? You can say you put it in the garbage can. No use. garbage. You say you use it to tie the garbage. Smart. Thank you very much."</p> <p>○指導者は、何枚かの紙を示して、"How will you do with these paper?"一人の児童が飛行機を折って遊ぶと中国語で言ったので、指導者はそれを受けて、"Maybe I can make a paper plane. After using it, what will you do?"と折り紙で飛行機を作った後、紙がしわくちゃになった様子をジェスチャーで示す。</p> <p>○指導者は、You can RECYCLING UPCYCLING DOWNCYCLING と書かれたスライ드를提示する。"We can do in three ways."と言う。</p> <p>○指導者は、We've done upcycle and recycled, now let's try downcycle と書かれたスライ드를提示する。"Today we are going to do downcycle."と語る。指導者は、裁断した紙の入っている透明なバッグを示して、"Are you going to recycle this? It's OK. Or you can downcycle, too. What are you going to do?"と語る。</p> <p>○指導者は、Hands on time と書かれて手と裁断された紙、紙をすくための木杓、ミキサーの写真が載っているスлайドを提示する。"Hands, Blender, Shaked paper which we have already, and tackle"と言う。</p> <p>○指導者は、I need a blender for paper making, but I don't want to buy a new one. と書かれ、セカンドハンドショップの写真が載ったスлайドを提示する。"Blender. This is to make juice. I don't want use my blender to make the paper. I went a secondhand shop. I go inside, and watch and look."と言う。</p> <p>○指導者は、"I found one"と書かれ、店に並ぶミキサーの写真と喜んでいる自身の似顔絵が載ったスлайドを提示する。"It is good. It is 600 dollars. It is 1800 dollars. (新品の書価格は、1800ドルであるということ：筆者追記)Yhea. How happy."と言いがちながら全身で喜びをあらわす。"Then that is over there."と教室内に置かれたそのミキサーを指さす。"Awesome. Secondhand. Good."と嬉しそうに語る。</p>
---

<p>○指導者は、Look at T (Teacherの略) 00 (指導者名) demo (demonstratesのこと) about how to make paper. と書かれたスлайドを提示する。"I will show you how to make paper one time. And then Please do it. I will use iPhone and eco-TV."と言ってからカメラを設定する。</p> <p>○指導者は一人の児童にiPhone を持ってもらい、撮影を依頼する。"Please take the camera. And follow me, honey."と言う。"I made some pour here. You can see on that TV. Use my hand to stir. OK. You are just like. Smoothly. Then the water dry. Water is dripping for a while. Be careful. We put it on something to absorb water. My hand are so wet. What should I do? We use it to absorb water. (タオルで上から水分を取る。) One more time. (もう一度タオルをあて、上から軽く押さえる。) OK. See? Next week I will bring hair drier."と説明する。</p> <p>○指導者は、児童が紙づくりをするための準備物について説明をする。"You can use this net."と言う。指導者自身が作った紙を見せながら"This is my paper."と言う。また、別のクラスの児童が作った紙を見せながら、"These are square, any size is OK. Please use the net."と語る。</p> <p>○指導者は、"Are you ready? I will say one, two, three, go. O.K.?" "One, two, three, go."と活動の開始を指示する。</p> <p>○児童は立ち上がり活動に入る。</p> <p>○指導者は、たらいを持って"This is water,"と言いがちながら一つのテールズに置く。"Somebody wants to use the net?"と声をかける。</p> <p>○指導者は、あるグループに対して、たらいの液体を触りながら、"It is too thick. Put water more."と言う。</p> <p>○指導者は、"This part is perfect."と上手にやっているグループをほめる。</p> <p>○児童は、ほぼ中国語で話している。紙にしわが寄ったり、水気を撮るためにタオルで押し付けすぎてタオルに一部がくっついてきてしまったりでうまくいかないグループが多い。</p> <p>○指導者は、かなり床もたらいの液体等で汚れるが終始にこやか。指導者は、"OK. That's all right. We are fine."とにこやかに各グループの様子を見ながら英語で語り掛ける。</p> <p>○何人かの児童は、Blender を使って液体を搾やすことに挑戦している。</p> <p>○時間になったので終了する。</p>	<p>授業の特徴</p> <p>○後半に活動があるので、先生の説明はよく聞いておかないという気持ちがある。強いためか、英語もよく聞いている。</p> <p>○指導者は、実物を示しながら、あるいは実際に活動しながら英語で説明するので、よく理解できている。</p> <p>○指導者自身がダウンサイクルの活動を楽しんでいるのが児童にも伝わっている。ミキサーを安く手に入れた話などに児童がどこまで実感を持った理解</p>
---	--

提案	<p>をしているかは不明だが、先生が楽しく取り組んでいることは理解できていると感じた。授業が終わってから児童が「この授業は楽しい。00先生(指導者名)が好きです。」と2人の児童が英語で話してくれた。</p> <p>○指導者は、一時間通してすべて英語で指示し、質問し、つぶやきまでも英語で言っている。児童が自発的に英語を使っている場面は見られなかったが、指導者の発言意味は理解している。最後まで活動によく取り組んでいる。</p> <p>△発言した児童にお菓子が配られた。これは日本ではないことでは？</p>
その他	<p>・使わなくなった古布や洋服で、雑巾やタオルを作成するアップサイクルリングとバイクや自動車のパーツ取りも実はダウンサイクルであるなど、リサイクルについてなかなか細かく学んでいる。</p> <p>・指導者は、作業手順を見せながら英語で説明するので、作業手順を目で理解している可能性もあり、どこまで英語のインプットになっているのかは、不明である。</p>
No.	6
授業学年	1年生
授業者	専科教員 男性 (ネイティブ)、学級担任 女性
科目	バイリンガルクラス
テーマ	海の生き物と亀の体につくりについて知ろう。
具体的な内容	<p>○学級担任が「もうすぐ授業が始まります。準備し席に着きましょう。」と中国語で子どもたちに指示する。</p> <p>○本時は、前の時間から続いている。そのため黒板には、前時の板書が残されている。右側には、Island, Cave, Ferry, Boat と書かれている。簡単な線画も書かれている。左側には、sunrise, rode the train, look-out, Sunset と書かれている。Sunrise と Sunset については、線画が書かれている。</p> <p>○指導者は、児童に“Good afternoon, everyone.”と挨拶する。児童の多くは、それに対して“Good afternoon, Mr. 00(指導者名).”と挨拶を返す。</p> <p>○指導者は、児童の書きかけの絵について“we are going to start drawing sheets more five minutes.”と指示する。中央のスクリーンには、タイマーが大きく表示される。</p> <p>○指導者が“Five minutes, and finish. OK.?”と言うと、一人の児童が“Ya.”と反応している。</p> <p>○指導者は、前の机を指さしながら“You have done, put it here.”と指示する。すぐに一人に児童が自分の作品をもって指導者に渡そうとする。特に言葉は発していない。指導者は、その作品をみて、“OK.”と親指を立てるジェスチャーをして受け取る。</p>

<p>○担任は、カメラで各児童の作品を写真に撮りながら中国語で励ましの声をかけている。</p> <p>○児童は熱心に描き続ける。繰り返しの音楽がかかっている。</p> <p>○後1分ほどになったところで3人の児童が次々に絵を提出するために指導者のところに来る。指導者は、絵を見て、にこやかに“Good”と言ったり、“OK”という親指を立てるジェスチャーをしたりしながら受け取っている。</p> <p>○指導者は、残り時間が30秒になったところで“Thirty seconds, Thirty Seconds.”とクラス全体に声をかける。</p> <p>○指導者は、“If you are done, raise your hands. I will come.”と指示する。</p> <p>○指導者は、時間になったので、“I’m going to collect sheets now.”と指示し、前の左列から一人一人の児童の席を回り、プリントを集めていく。</p> <p>○指導者は、集めながら“it’s time.” “Do you have your name?” “Please give me your sheet.” “Very good. Thank you.”と声をかけながらプリントを集めていく。</p> <p>○指導者は、スクリーン画面に Draw a Fish と示す。</p> <p>○指導者は、“Can I have everyone’s attention, please?”と指示する。児童は、静かにしているが、特段集中力が高まった様子にも見受けられない。</p> <p>○指導者は、スクリーンに“Let’s try a…”と表示し、“Now, We have little words exercises.”と指示する。</p> <p>○指導者は、“Worksheet”とスクリーンに表示した直後に練習用紙と同じものをスクリーンに示す。そして、“Let’s start out. First thing is write the name on the top. My name is 00(指導者名). My number is 0.”と言いながらスクリーンに指導者の例を書き込んでいく。児童は、先生の様子をよく見ている。</p> <p>○指導者は、引き続き、“The date is 27<sup>th</sup> today.”と言いながら日付を書き込んでいく。</p> <p>○指導者は、“No.1 Trace the word.”と言いながら魚の絵を指さす。児童の何人かは、“Fish”と言う。指導者は、“We will write the word, Fish.”言いながら、スクリーンに“Fish”と書き込む。</p> <p>○指導者は、二つ目の絵を指さす。児童の一人が“Sea turtle.”と声を出す。指導者は、聞こえて“Yes, Sea turtle.”と言いながらスクリーンに書き込んでいく。児童は、スクリーンに書かれた文字を自分のプリントに書き写していく。</p> <p>○指導者は、“This one here.”と言いながらフェリーの絵を指さす。児童から反応がない。指導者は、黒板に右側に書かれた Ferry の文字と絵を指さしながら“Big boat. Big boat. Lot of people. Lot of people go on it.”と言う。一人の児童が“One hundred”と言う。指導者は、それに対して“Yes, It may be one hundred. Can you say the word?”と言いながら Ferry の文字を指さすが、児童からは発音はない。</p> <p>○指導者は、“Ferry”と言うと数人の児童が繰り返す。指導者は、さらに“Ferry”と言うと1回目よりも多くの児童が後に続いて繰り返す。</p> <p>○指導者は、“It’s a Ferry boat. Ferry boat.”と繰り返す。児童も後に続けて何人かは言う</p>
---

ている。

○指導者は、“Ferry is a big boat.”と言いなながら、綴りをスクリーンに“Ferry Boat”と書き込んでいく。

○指導者は、島の絵を指さしながら“This one is here.”と言う。児童の数が“Island”と言う。指導者は、“Yes. Very good. Island”と言いなながら“Island”とスクリーンに書き込む。

○指導者は、“I will add a bonus here. Is anyone remember what can you do this? Walk to the top. What do this?”と言いなながらあたりを眺めるジェスチャーをして見せる。ある児童が“Look”と言う。その直後に別の児童が、“Look out.”と言う。指導者は、“Yes. Good. Look out.”と言いなながらスクリーンに書き込む。

○指導者は、書き終わった後で、“Look out.”と繰り返す。

○指導者は、スクリーンの下方に台湾の地図を示す。そして、“Draw it here.”とその地図を書き写すように指示する。児童の何人が“Ah-mm”と言う声を上げて大変な作業だという気持ちを表した。指導者は、それを受けて、“Just try to draw the outline of the island. You don't have to be in detail. Maybe, add some water around it. Draw a road. Maybe a road is going down.”と言いなながら島の形を書き写すし、海に波模様を数本書き込む。児童の何人がは、指導者の絵をみて笑っている。この程度の絵でよいのであればと言う安心感も出ている。

○指導者は、スクリーン右側の説明をする。“Then here. Please draw a line to match the objects.”と指示する。

○指導者は、一番上に書かれた単語 Cave を指さし、“Here. This one says?”と児童に尋ねる。児童の多くが“Cave”と言う。右列には、絵が5つ並ぶ。

○指導者は、“Which one is the cave.”と尋ねると児童の何人がは、中国語で「下、下」と答える。指導者は、“This one.”と言いなながら、Cave を正しい絵と線をつなぐ。

○指導者は、“I will hand the sheets out. We can get start.”と言いなながら、児童にプリントを配布する。

○学級担任は、児童が書く準備ができてきているか、確認し、支援の必要な児童には声をかけている。

○指導者は、児童にプリントが行きわたったことを確認して、“First start with name and number. And then the date.”と指示する。

○全員の児童が熱心に取り組む。

○指導者は、机間指導しながら状況の確認をする。

○担任は、カメラで活動の様子を撮りながら、児童のプリントの進み具合を確認している。

○指導者は、“If you are on the back side, please change the word walk. Walk.”と歩くジェスチャーをしながら言う。

○早めに書き終わった児童は、指導者に合図をして手渡す。

○指導者は、終わっていない児童のところに行って声をかける。その児童が書き終わったプリントを受け取る。

○5分ほどたっていて、終わった児童は、中国語で友達とおしゃべりしている。

○学級担任は、席に着くように中国語で指示する。

○指導者が、“I have everyone sheets. Are you OK?”と回収忘れがないか確認する。指導者が“OK”と親指を立てながら全員に聞くと、“OK.”と反応する児童が何人かいる。

○指導者は、Sea Turtles!という文字とウミガメの絵をスクリーンに映し出し、“Now. We will take a look at Sea Turtles!”と言う。一人に児童が、“Sea Turtle!”と繰り返す。

○指導者は、“We will learn about parts of a sea turtle.”と言いなながら画面の Parts of a sea turtle の発音に合わせて指さしている。

○指導者は、“Do you know the word parts? Is anyone know the word parts?”と尋ねる。児童の何人が体の部分を指さす。

○指導者は、“Yes. My body's parts are legs, my arms, head, my hands, my teeth, my eyes, and my mouth. These are parts of me.”と自分の体の部分を指さしながら説明する。

○指導者は、ウミガメの頭の部分の拡大された写真をスクリーンに示して、“Now we are looking out the parts of sea turtle.”と指示する。

○“Let's start with this part. Anyone know this part.”と尋ねると、一人の児童が“Mouth”と答える。

○指導者は、“Ya.”と答え、スクリーンに Beak と言う文字を示して、“We can call it Beak”と言う。

○直後に指導者は、“Beak”と2回言う。児童は、“Beak”と繰り返す。

○指導者は、“Is anyone know what other animals have beak?”と2回尋ねる。児童は、“Shark”と答える。指導者は、“Not shark. fly fly”と手で翼をはためかせるジェスチャーとプリントを与えると、児童の一人が“Bird”と答える。

○指導者は、“Birds have beaks. This is a bird.”という文字と鷹とペリカンのくちばしの写真を示して、“Birds also have beaks.”と言う。

○指導者は、beak と黒板に書く。

○指導者は、Birds have beaks と書かれ、12種類の鳥のくちばしの絵をスクリーンに示す。指導者は、“Beaks, Beaks”と繰り返して言う。

○指導者は、Animals Heads という文字と、12種類の動物の頭をスクリーンに示し、“We also look at heads. Can we say head?”と指示する。児童は、“Head”と繰り返す。

○指導者は、“What animals these are?”と尋ねると、児童の何人かは、“Ya.”と答える。

○指導者は、ライオンの絵を指さし、“What is this?”と尋ねると、一人の児童は、“I don't know.”と言う。他児童の何人か“tiger”と答える。

○指導者は、トラの絵を指さして“‘What is this?’”と尋ねると、児童の何人か“tiger”と答える。

○指導者は、ライオンとトラの絵みて、区別が難しいので、“It’s hard one. I don’t know.”と言ひ、次の絵に話題を移した。

○指導者は、狼の絵を指さして“What is this?”と尋ねると、児童の多くは、“Monkey”と答える。

○指導者が白熊の絵を指さしながら“What is this?”と尋ねると、児童の多くは、“Bear”と答える。一人が“Polar Bear”と答えると、指導者は、“Very good. This is white. It’s probably a polar bear.”と説明する。

○指導者は、コアラの絵を指さし“This one is here.”と尋ねると、児童の何人かが中国語で「コアラ」と答えている。数人の児童が“Koala”と言う。指導者は、“Very Good. Koala”と言う。

○指導者は、茶色のクマを指さして、“What is this?”と尋ねると、児童“Bear”と言う。指導者は、特に繰り返さない。

○指導者は、ビーバーの絵を指さし“What is this?”と尋ねると、児童はわからない様子でいる。指導者は、“It chews things. They chew things. They make dams. They make big dams. It has a big tail.”とヒントを与える。指導者は、“Beaver. Please say beaver.”と指示すると、児童は繰り返す。

○指導者は、象の絵を指さして“What is this?”と尋ねると、多くの児童が“Elephant”と答える。指導者は、“Big. Very very big. Elephant.”と言う。

○指導者は、サルを指さして“What is this?”と尋ねると、多くの児童が“Monkey”と答える。指導者は、“Ya. Monkey. Smiling monkey.”とニコッとしたサルの絵を指しながら言う。

○指導者は、パンダの絵を指さして“What is this?”と尋ねると、多くの児童が“Panda”と答える。特にくり返しては指示しない。

○指導者は、クマの絵を指さして“What is this?”と尋ねると、多くの児童が“Bear”と答える。指導者は、“Ya. This is a bear. too. These are animals’ heads.”と自分の頭をさしながら説明する。

○指導者は、Sea Turtle Head と書かれ海の中にある大きな亀の写真映像を提示しながら、“Sea turtle heads.”と言う。指導者は、写真に出てくる頭の部分についてピンクの丸が込みをしている。

○指導者は、3頭の亀の頭を指さしながら“Head”, “Head”, “Head”と確認する。最後の頭は大きいので、“We can see the eyes, and a beak. Probably all things are on head.”と説明する。

○指導者は、Flippers と2頭の亀が泳いでいる写真をスクリーンに示す。ひれの部分がピンクで丸囲みがされている。

○指導者は、“We are going to look another part. It looks like arms and legs. Flippers.”と言うと、何人かの児童が、“Flippers.”と繰り返す。

○指導者は、“They go with flippers to swim. Swim.”とひれを使って泳ぐジェスチャーをしながら説明する。

○指導者は、一頭の大きなウミガメが泳いでいる、その後方に人が泳いでいる写真を提示する。指導者は、flipper の部分をピンクで囲みながら“These are flippers. Look at the man.”と説明する。何人かの児童から“Teacher 00 (指導者名)”とその泳ぐ人を先生ではという声が上がります。

○指導者は、それに対してにっこりしながら、“No, it’s not me. Human. It is a person. On his feet, they are also called flippers. They work just like these flippers.”と亀の flipper をさしながら説明する。

○指導者は、Scutes と亀の甲羅の絵をスクリーンに示して、“Scutes. Very big. One Two Three Four Five six”と甲羅を数える。

○指導者は、別の甲羅全体がみえる写真をスクリーンに映し出し、児童と一緒に数える。13まで言い終わると“Can you say Turtle Scute?”と指示すると、児童は繰り返す。

○指導者は、Scutes are の文字と魚、魚のうろこの拡大写真をスクリーンに映し出し、“These are scales. Can we say scale?”と指示すると児童は繰り返す。

○指導者は、“Scales are small fish scales are small. Is anyone felt the fish scale. Have you ever touch the scales?”と尋ねると、数人の児童が中国であると反応する。

○指導者は、“Can we say Fish have scales.”と指示すと何人かの児童が繰り返す。

○指導者は、“Fish have scales”と繰り返すように指示すると何人かの児童が繰り返す。

○指導者は、Scutes are Big と魚のうろこ、亀の甲羅の拡大写真をスクリーンに映し出す。

○指導者は、“Scutes are big. Very very big.”と言うと何人かの児童は繰り返す。

○指導者は、“Scutes are big. Scales are small.”と説明する。

○指導者は、Turtles have scutes. と魚のうろこ、亀の甲の拡大写真をスクリーンに提示し、“Turtles have scutes.”と説明する。

○指導者は、Scutes Shell 亀の甲と亀の甲羅の写真を横並びで示し、“These are the scute on the back.”と Scutes を指さして説明する。続けて、Shell を指さして、“This is called the whole thing back on the turtle.”と説明して、Shell を指さし児童に言ってみるよう促す。1人の児童は、“Scutes”と言う。

○指導者は、それに対して“No, Shell, Shell. This is a shell. Turtle has shell.”と背中をまげて甲羅のある場所を示しながら説明する。

○指導者は、“Whole is shell, small section is scute.”と説明する。

○指導者は、Sea Turtle Shell と大きな亀が泳いでいる写真をスクリーンで示し、“Shell is this part.”と言ひながら、ピンクの線で写真の甲羅部分を囲んでいく。“This part is the shell. When he is scared, he moves like this. Protection. Very hard.”と説明する。

○指導者は、Tail と亀のしっぽの写真をスクリーンに示し、“It’s...”と説明しようとする、何人かの児童が、“Tail”と言う。

<p>○一人の児童が、“What is this animal?”と質問する。指導者は、それに対して、“tortoise, It looks like a turtle. It walks very slow. It is not swimmer. Sea turtle is a good swimmer. Sea turtles swim very well.”と説明し、“Can we say tortoise?”と繰り返すように指示する。3回繰り返すが、児童の声はそれほど大きくはない。</p> <p>○指導者は、Sea Turtle Tailとウミガメの頭の絵を並べてスクリーンに提示し、“Sea turtle. Tails are small. Very very small.”</p> <p>○指導者は、Those…parts of sea turtlesとするスクリーンに提示し、“OK. Those are parts of sea turtles. We have the time, three minutes left.”と言う。</p> <p>○指導者は、“I want to see you tomorrow. Tomorrow is holiday. I will meet you next week. Next week, We are going to do some activities with sea creatures. I show you the activities.”と説明する。</p> <p>○指導者は、ウミガメを上から見た絵をスクリーンに示して、“I will show you the names of the parts of sea turtle. And then please show me your drawings.”と説明する。</p> <p>○指導者が、“OK?”と尋ねると教員の児童が、“Yes”と答える。</p> <p>○指導者は、“OK. Thank you very much.”と言うと、児童は、“Thank you Mr. 00 (指導者名).”と挨拶する。</p>	<p><b>授業の特徴</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材が自作で、絵を描きながら活動に参加するので、全員に達成感があるのではないか。集中力も持続する。</li> <li>○すべての指示を英語で行っている。ジェスチャーが付け得られることがしばしばある。</li> </ul> <p><b>優れた点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○専科教員と学級担任の連携がよくされている。英語の指導は、専科教員が、クラスマネジメントは、学級担任が担当するという役割分担のように感じられる。</li> </ul> <p><b>疑問点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○指導者が、児童一人一人を大切に、丁寧にかかわる。一人一人からプリントを受け取るときも丁寧にゆつくりと語りかけている。</li> </ul> <p><b>提案</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○亀の体の部位について、くちばしをbeakといい、鳥と同じ言い方をすると、亀の甲羅と背中全体の呼称は違うなどの説明もある。</li> </ul> <p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校1年生で亀の体のつくりについてどこまで詳しく学ぶべきなのかが不明。</li> </ul>
<p>No. 7</p> <p>授業学年 1年生</p> <p>授業者 女性、英語専科教員 担任は教室内の机で事務仕事をしている。</p> <p>科目 バイリンガルクラス生話科</p> <p>テーマ I have talents.私にできることを表現する。目録表現 I can sing. I can draw. I am good at ~ing.</p> <p>具体的な内容</p>	

<p>○指導者は、スクリーンにI can sing. (歌を歌うことができる。) I can hula-hoop. (フラープができる。)などの活動を描いた絵を映し出す。その絵は、12枚の番号が書かれたカードで隠されている。児童が好きな番号を言うと、先生がそのカードを取り除く。児童は、チームでできるだけの少ない枚数のカードを取り除かれた状態でI can …と言えた場合にそのチームに加点される。より多くのポイントを集めたチームが勝ちとなるというルールである。</p> <p>○この活動の後で、同じ絵を使って、I am good at …と言いついていく。たくさん練習した後、指導者が、“What are you good at?”と尋ねる。指名された児童が“I am good at jumping rope.”と発言すると、指導者は、同じ人はいるかという意図で“I am good at jumping rope. Raise your hands.”と語りかける。児童は、近くの友達と情報交換する。その情報をHe, Sheを使ってクラスの皆に報告し合う。</p> <p>○次に、Talk to your partner. の活動に移る。チーム内でお互いに自分が得意なことを伝える。もし、英語で言えないことが得意な場合はその部分は中国語で言う。指導者が、“What is he/she good at?”とある児童を指さすと、その児童の得意なことを聞き取った別の児童が、“He/She is good at playing ….”と答える。</p> <p>○最後に、“I want to try…”を言うてみようという事でいいです。”と中国語で指示されど、やったことないけれどという事でいいです。”と中国語で指示する。</p> <p>○指導者は、9つの絵が描かれたワークシートを配布する。児童は、絵の中で自分がやってみたいことが描かれている絵を切り取る。自分ができていること、これからやってみたいことをプリントに絵を張り付けていく。指導者は、“Cut the one of them with your scissors. And put it on the sheet with glue.”とノリ、ハサミを使って等の指示も道具を示しながら英語でする。</p> <p>指導者は、「英語で書ける児童は英語で書く。中国語で書いてもよい。」と中国語で指示する。</p>	<p><b>授業の特徴</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コンピュータをうまく使って、ゲームをしながら目標文を学ぶことができる。</li> <li>○最後に自分のことを表現する時間を設定している。絵を切り抜きながら、英語で話すリハサルになっていくのかもしれない。</li> </ul> <p><b>優れた点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲームのルール説明場面では、英語で説明しながらカードが順番に取り除かれている過程を示した。児童は、最初は理解が十分でなかったためかためらいがあった。中盤からはほぼ全員がゲームのルールを理解して、全体に積極的に活動に参加した。</li> </ul> <p><b>疑問点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ある児童が正解を言った後、指導者は、絵を覆っているカードを取り除く度に“I can ….”と児童の発言を繰り返しながら、正しい英文を言っている。</li> <li>○7つのチーム対抗のためもあってか、ゲームの後半では全員が手を挙げている。</li> </ul>
--	---

	○絵を懸しているカードを取り除いても、その部分に何も描かれていない場合がある。指導者が“Nothing.”という場面が何度かあった。後半児童が“Nothing.”と覚えてばかりの表現を使う場面があった。 △ヨーヨーだけで伝わるので、児童は、単語だけで情報を伝える傾向がある。指導者は、文にしてリキヤストしている。 ?I am good at...を活用する場面では、最初 at...ing の形になりにくい。また、名詞のままでも hula-hoop など名詞のままでの表現として正しい場合もあるので、理解が難しい。 ・指導者はマイクを使っている。児童が大きな声で発音するため、指導者の声がとどかなくなることが理由であると言う。 ○注目のさせ方が面白い。指導者が掛け声をかけると、児童がそれに答えるように応じる。T:Attention. Ss: Attention. T: Look at me. Ss.: Look at you.
その他	

No.	8
授業学年	5年生
授業者	女性、英語専科教員と担任
科目	Bilingual Class
テーマ	Be healthy 健康のために 授業目標:健康を保つためにどういう姿勢に気を付ければいいのか。また、バックパックの背負い方について何に気を付ければいいのか。 使用する語彙は、posture, chin, forward head, rounded shoulder など体の部位。

具体的な内容	○指導者が、「健康のために何をしますか。」と問い、男子児童全員が黒板に書いたことを中国語で書く。全員書き終わったところで、指導者は、中国語を英語に言い換えながら、何人が同じこと書いているか教える。具体的には、運動という板書を見て、“exercise”と言った後、“How many?”と尋ねながら、運動と書かれた文字にチョークで丸を付けながら“One, two, three, four...six. Exercise”と言う。他に“Drink water” “Don’t play too much mobile phone games.” “Watch games too much.”などがあげられた。 ○スクリーンに“What actions can we take?”とタイトルが表示されその下に4つの場面“eat healthy food” “exercise” “take a break” “get enough sleep”が絵とともに示される。指導者が読み上げ、児童は繰り返し返す。 ○スクリーンに“There is one more action we can take.”と2つの絵「よい姿勢」と「悪い姿勢」を示す。絵の下には“have good postures”と書かれている。中国語でよい姿勢と悪い姿勢について今日では考えていこうと話す。 ○スクリーンに男子が、よい姿勢で座る絵と猫背になっている絵が示される。指導者は、
--------	--

<p>“Which is good?”と児童に尋ねる。児童の何人かが、“Left”と答える。 ○スクリーンに成人男性がよい姿勢の椅子に座る絵と猫背で座る絵が示される。指導者は、“Which is good?”と児童に尋ねる。児童の何人かが、“Left”と答える。 ○指導者は、悪い姿勢のポイントを英語で説明する。スクリーンに抽象化された悪い姿勢の絵が示される。“Forward Head”と言った後で、「肩より頭が前に出すぎていたのはよくない。」と中国で説明する。 ○航けて、“rounded shoulder” “hunchback”も姿勢としてよくないこと中国語で説明する。“That posture is no good.”と言って英語で読み上げる。 ○スクリーンに“Good Standing Posture”と示され、女性がよい姿勢で立っている写真が示される。加えて I stand up straight. と示される。指導者は、“Ear, shoulder, hip, ankle are straight on.”と言う。次に 2.chin tucks and shoulders down. と示される。指導者は、顎が上がったり、肩に力が入ったり、上がりがちになってたりして悪い例を示しながら “2. chin tucks and shoulders down.”と言う。次に 3. body weight goes to your feet evenly. と表示される。evenly について児童に繰り返し言わせてから、指導者が自ら evenly であることを状態と not evenly である状態を示す。 ○指導者は、児童を起立させて、よい姿勢で立つように指示する。直前に説明したスクリーン 1, 2, 3 を再度示しながらよい姿勢で立つときに注意事項を英語で確認する。 ○指名された児童（以下「代表児童」）が前に出て、よい姿勢で立っているかどうか確認する。その際、指導者は、他の児童に対して、代表児童がよい姿勢で立つことができるように 1, 2, 3 を順番に読み上げるように指示する。 ○長い棒を代表児童の腰にあてて、よい姿勢であることを“Ear, shoulder, hip, ankle are straight on.”と確認していく。 ○スクリーンに“Good Standing Posture with your bag on”と示される。バックパックの絵と“Is it heavy?”も示される。指導者が、“Is it heavy?”と児童に問うと、何人かは、“Yes.”と言う。一方、“No.”と言う児童もいる。 ○スクリーンにバックパックを背負った男子が、よい姿勢で立つ絵と猫背になっている絵が示される。また、スクリーンの下方には、“Take picture for your partner and post it on the computer”と指示が書かれている。 ○指導者は、バックパックを背負って立つように指示する。やや肩掛け部分が長く姿勢がよくない児童の前に出させて、「このバックがもう少し高い位置にあればよい姿勢になる」ということを中国語で説明する。 ○児童はコンピュータで写真を撮る。 ○指導者は各児童のペアから送られてきた児童の写真を確認していく。“Shoulders, neck are on straight. Very good.”などと英語でコメントしながら写真を見ていく。姿勢で気を付けたところがある児童については、「写真にマーカで少し首を後ろにしよう。」など中国語でアドバイスする。また肩掛け部分が長い児童には、肩掛け部分を短くしてもらう一</p>
---

写真を撮って見比べるように中国語で指示する。 ○スクリーンに Which is more attractive? というタイトルと2人の女優が示される。一方は真づくにたち、もう一方はまっすぐででない例である。スクリーンには、attractive 中国語で「魅力的」も示される。続けて、男性俳優の良い姿勢の例とやや拙背ぎみの姿勢が示される。 ○スクリーンに、Let's do the exercise to fix it. というタイトルと、頭に本を一冊載せた女性の写真が写し込まれる。指導者が児童に本など1冊を頭に載せ、本を落とさず歩く練習をするように中国語で指示する。まず、女子だけ列を作って廊下まで出ていく。続けて男子も同じように列を作って歩く。廊下まで出て行って戻ってくる。 ○指導者が、肩を上げたり下げたり練習の大切さを中国語で説明する。ペアで壁を使って、肩が丸まらないように気をつける運動をするように指示する。 ○グループで壁を使って肩が丸まらないようにする運動をしていると授業おわりの時間になり終了する。 授業の特徴 ○指導者は、健康や姿勢に関わる英語の語彙をたくさん使用している。児童は聞くことを中心として、それらの単語を言うことはあまりない。 ○活動が多く、その活動の指示をほぼ英語で行っている。 優れた点 ○元氣な女性の先生が明るく進めていく。 疑問点△ ○実際にいつも行き帰りに使用しているバックを背負わせて、2人組になっで写真を撮り、それをコンピュータを使って共有し合う。 ○指導者は、Straight up など、児童が言いにくいところがあると繰り返ししていた。 ○多くの活動が行われていて、その際にこの時間に大切にしている英語を繰り返し、意味を持って使っている。 △先生のコントロールを少し外れかけると指導者が叱る。俳優のいい悪い、俳優の少し納得のいかない様子であった。俳優として魅力的なポーズをとった一瞬を切り取った場面のため、ある人物の姿勢が良い悪いと言いつつ切れないのかもしれない。また、俳優さんの美しさ等に意識が行き、姿勢がわかりにくいかもしれない。 その他 ・指導者の声が大きくよく通るためのあつてか、マイクは使っていない。 ・授業中の黒板消しは、児童がしている。
---

No.	9
授業学年	3年生
授業者	英語専科教員 女性
科目	英語
テーマ	時間の言い方に慣れる。

具体的な内容 ○指導者は、スクリーンに絵本 What's the Time, Mr. Wolf? を示す。オオカミが食事をよくないマナーで食べている様子が描かれている。 ○指導者は、“What is Mr. Wolf doing?”と児童に尋ねる。児童は、“eating”と答えている。 ○指導者は、“Is Mr. Wolf well behaved or naughty?”と児童に尋ねる。児童は、“Naughty”と答える。 ○指導者は、“A sense of ritual or casual?”と尋ねる。児童は、“Casual”と答える。指導者は、“Why?”と児童に尋ねる。児童は、答えられないと指導者は、「フォークとナイフを持っている。テーブルクロスが掛かっている、ワイングラスも置いてある。これらことから ritual かな。」と中国語で説明する。児童は、静かに聞いている。 ○指導者は、児童に対してペアで一台コンピュータを使うので朝から持ってくるように指示する。混乱することを避けるために、あらかじめ児童には番号が与えられている。その番号順に並ぶように英語で指示する。“Raise your hand.”という具合である。児童は静かに並んで受け取る。その際も指導者は、“One, Two, Three…”と声をかけながら渡す。 ○指導者は、スクリーンに ed puzzle 1. Open your camera. 2. Type the number of your tablet. 3. Join open class. と書かれている文字を順番に提示しながら、口頭でも指示をする。 ○指導者は、「この画面に行けたと思うけれど、行けていない人は言うよう」に中国語で指示する。できていなかった1ペアを支援する。 ○スクリーンには、この絵本の英語の読み聞かせをしている映像が映し出される。映像の中で、読み手である別の女性とオオカミが英語でやり取りしながら進む。例えば、オオカミが“I'm hungry, I'm hungry.”というのに対して、読み手は、“Ok. Calm down.”と言いがら、絵本のオオカミの顔をなぞっている。頭の部分だけが布で立体になっているので、なぞっていることがよくわかる。寝ているオオカミが目覚まして起きようとして“What time is it now?”という読み手は、“It's seven o'clock.”と言う。 ○指導者は、読み聞かせ映像を止めて、“What is the time to wake up?”と児童に尋ねる。児童はペアになってコンピュータ上で、質問に答えている。相談しているというより、自信のある児童が答えて、もう一人がそれを見守る。あるいは、順番に答えていくという雰囲気である。以下質問にはすべてコンピュータで答える時間を少しずつとっている。また、指導者の質問に対して、多くの児童が“It's seven o'clock.”と答えている。 ○再び読み聞かせをしている映像が映し出される。読み手は、朝食を食べようとするオオカミに対して、“What time is it, Mr. Wolf?”と尋ねる。 ○指導者は、“What time is the breakfast time?”と児童に尋ねる。指導者が、“Please tell me, what time is the breakfast time?”と再び尋ねると多くの児童が、“It's eight o'clock.”と答える。 ○再び読み聞かせ映像が映し出される。読み手は、“What time to wash the teeth.”と聞い
---

ている。

○指導者は、“What time is it to brush the teeth?”と児童に尋ねる。児童は“It’s ten.”と答えている。絵本の中の時計に時刻が表示され、英文も書かれている。

○再び読み聞かせをしている様子が出される。読み手は、“What is the time to put on jacket?”と尋ねている。指導者は、“What time is it to put on jackets?”と児童に尋ねる。児童は、“It’s ten o’clock.”と答えている。

○再び読み聞かせをしている様子が映し出される。読み手は、“It’s eleven o’clock. It’s time for playschool.”と言う。指導者は、playschoolの意味を中国語で確認し、“kindergarten”と言う。児童は、繰り返す。

○再び読み聞かせをしている映像が映し出される。読み手は、“What’s the time, Mr. Wolf?”と言ったところで、指導者は、映像を止める。児童は、少し考えている。指導者は、“It’s time for...?”と言いかけると、児童が、“Lunch time”と言う。指導者は、“Yes, It’s lunch time.”と言った映像を再び流す。ビデオでは、語り手が、“It’s for lunch time, hamburger, salad, carrot, juice, strawberries, Yum-yum.”と言う。

○指導者は、“What’s time for lunch?”と改めて児童に尋ねる。児童は、“It’s twelve O’clock.”と答える。

○読み手は、“What’s the time Mr. Wolf? It’s time for a nap!”と言う。続けて次のページに移る。“What’s the time Mr. Wolf? It’s time to read a book! Can you see this book?”と読んでいる本のタイトルに注目するように話しかける。

○読み手は、“What’s the time Mr. Wolf? It’s time to clean the dining-room!”と言う。指導者は、dining-roomの意味を中国語で言い、繰り返すように児童に言う。“dining-room”と2回繰り返す。

○読み手は、“What’s the time Mr. Wolf? It’s time to fetch the table cloth!”と言う。指導者は、“Fetch the table cloth.”と2回繰り返す。児童はその後に繰り返す。

○読み手は、“What’s the time Mr. Wolf?”と言う。指導者は、“They will cook for dinner.”と言う。読み手は、“It’s time to set the table.”と言う。

○読み手は、“What’s the time Mr. Wolf? It’s Dinner time!”と言う。指導者は、“Last question. What’s the dinner time?”と児童に尋ねる。考える時間を取った後、“Please tell me. What’s the dinner time?”児童は、“Six o’clock.”と答える。

○指導者は、新たな活動を始めるためにQRコードを示して、各ページの持っているタブレットでそれを読み込むように指示する。児童は、手際よくQRコードを読み取る。

○指導者は、全員が読み込んだことを確認する。下の表が表示される。続けて指導者は、“You can move the pictures to use. And you can use the pen or pencil to write. You can write the line. You can write the time. OK. Get started.”と英語で説明する。

時計	時計 7:00	時計 6:00	時計 3:00	時計 9:00	時計 11:00
Wolf の行	ベッドで起き上がる絵	本を読んでいる絵	幼稚園に行く絵	夕食を食べる絵	夕食を食べている絵
動物の絵					
英語の表現	It's time for dinner	It's time to get up.	It's time to read a book.	It's time for playschool	It's time for lunch.

それぞれのセルに表示されている絵や文字は自由に入れ替えることができる。また、正しく並べ替えができた後、それぞれのペアで英文を読み上げて、それをタブレットに録音する。児童は、ペアで相談しながら、正しい順番を整えていく。ペアによっては、一つできたら読んでいく。全部の順番を整えようとして困っているペアもある。

○指導者は、一人目が終わったペアは手を挙げてという。すべてのペアが終わっていることを確認してもらう一人が読み上げて、録音するように指示する。

○児童は、声が大きくなる。

○指導者は、ペアの2人目を読み終わったか確認する。2つのペアが終わっていないことが確認できた。指導者は、その2つのペアは続けて録音するように指示する。また終わっているペアは、タブレットを閉じて、全体で答えの確認をすることを中国語で指示する。

○指導者は、“Who can help me?”と全体に声をかけると一人の男子児童が手を挙げる。その児童は前に出て、表の並べ替えをする。一番上の時計の並べ替えをする。

○前に出た児童は、じっくりと取り組む。2人目の女子児童は挙手して前に出たが、なにもしないで立っている。指導者は、席に戻るように中国語で指示する

○“Let’s check the answers.No.1 is. What time is it? Nine.”

時刻を並べ替えることが難しい様子。指導者がリードして、やり取りをしながらフレーズを出していく。指導者は、児童が発話した後に3行目の空欄になった時刻の部分に数字を書き込んでいく。

○一番から文にして読み上げるように指示する。児童は、“It’s six o’clock. It’s time to get up.” “It’s nine o’clock. It’s time for breakfast.” “It’s eleven o’clock. It’s time for lunch.” “It’s two o’clock. It’s time to read a book.” “It’s six o’clock. It’s dinner time.”

○指導者は、教科書を聞いてそれを読んでいくように指示する。児童は、“It’s eleven fifteen.”と文字を読んでいく。文字と絵を見ながら英語を発話している。

○指導者は、この読み上げた内容について質問をする。質問は、スクリーンにも文字が表示される。指導者が、“Look at Big Ben. What time is it?” “Where is Big Ben?”と尋ねると児童は“A”と答える。それに続けて、“It’s ten thirty.”と答える。指導者は、“Write it down with your pencil.”と言う。児童は、テキストに書き込んでいく。スクリーンには、It’s ten thirty.と表示される。

○指導者は、“Let’s try Question No.2. Where are they doing?”と語り掛ける。スクリーンには Where are they doing? と表示される。児童は“They are going to Buckingham Palace.”

と答える。 ○指導者は、“Section 3. Who is hungry?”と尋ねる。児童は、“Abu.”と答える。指導者は、“Abu!”と途中で言いかける。児童は、“Abu is hungry.”と文で言う。 ○指導者は、“When is lunchtime at the palace?”と語り掛ける。児童は、“Eleven fifty.”という。指導者は、fifty の声が小さい、言いにくそうなのが気になったのか、“Eleven?”と語り掛ける。児童は、“Eleven fifty”と言いなおす。指導者は、“Lunchtime is at eleven fifty.”と言いなながらスクリーンに文を示す。 ○指導者は、教科書をスクリーンに映し出して、時刻を書き込み、児童も自分の教科書に同じように時刻を書き込んでいく。 ○指導者は、タブレットの片付け指示のために“This is a tablet, rom Ito 13.”と並び方も含めて指示する。児童はすぐにタブレットを持ち、番号順に並ぶ。手渡しで受け取りながら“One, two, three, four, five..., thirteen”と言う。 ○終わりに挨拶をする。	
授業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの活用によって全員が参加する。</li> <li>・小学校3年生も文字が示されている。一方、書くことはなかった。</li> <li>・クラスルームイングリッシュよく使われているので授業のほとんど英語ですすめられている。</li> </ul>
優れた点○ 疑問点△ 提案？	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1日のスケジュールをいつ、何をやるのかを確認した後で、表を正しく作りなおす活動を2人組で行う。</li> <li>○絵本の主人公の行動とその時刻、テキストの主人公の行動とその時刻について声に出して音読、あるいは語ることで、だんだんに声が大きくなり、自信をもつて時刻について語るようになってきていた。</li> <li>○わからないことがあるペアは、挙手して指導者にアドバイスを求めている。</li> <li>○児童は、タブレットを使い慣れている、道具として活用している様子がかがえる。</li> <li>△ペアで一台のタブレットには意図があるのか。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活用ビデオ</li> <li>超好玩的英文絵本：What's the time, Mr Wolf? <a href="https://www.bing.com/videos/riverview/relatedvideo?&amp;q=what's+the+time+mr+wolf%27%bb%98%e6%9c%ac&amp;mid=7FD6987D5FB5016F03B87FD6987D5FB5016F03B8&amp;&amp;FORM=VRDGAR">https://www.bing.com/videos/riverview/relatedvideo?&amp;q=what's+the+time+mr+wolf%27%bb%98%e6%9c%ac&amp;mid=7FD6987D5FB5016F03B87FD6987D5FB5016F03B8&amp;&amp;FORM=VRDGAR</a> (2024年8月13日確認)</li> </ul>

授業者	ネイティブ教員 (以下 EN 指導者) 男性 学級担任 (以下 TN 指導者) 男性
科目	体育(バイリンガルクラス)
テーマ	ラグビーボールを使って競争ゲームを楽しもう。英語で応援してみよう。
具体的な内容	<p>○EN 指導者は、3人の児童 (男子1名、女子名) を前に出るように指示する。準備体操の見本を示す。ジャンプしながら両手を頭の上であわせる。その際パチンと音を立てる。前に出た3人児童には大きな声で掛け声を掛けるように指示する。</p> <p>○やや小さめの声で掛け声を掛けていた児童に“loud, loud, loud”とにこやかに声をかける。</p> <p>○EN 指導者は、“イー、アー、ム、サン、スー、ウー、リユーム、チャー、パー、one, two, three, four, five, six, seven, eight”と中国語と英語の両方で掛け声をかけている。</p> <p>○EN 指導者は、“OK. Stop. Big hands.”と言いなながらリーダーとなった3人に対して拍手する。児童も一緒に拍手する。</p> <p>○EN 指導者は、ロケットのようになつて、oneと言つたら少し前かがみに、twoと言つたらもう少し深く、threeと言つたらできるだけ深く前屈姿勢をとるように、fourと言いながら体を大きくそくそくさせる運動をジェスチャーで見本を示しながら指示する。児童は、理解してロケットらしいぎこちないジェスチャーも入れながら運動する。</p> <p>○EN 指導者は、中国語で地面に両手を付き、両足をリズムに乗せて入れ替える運動をするように指示する。前にいる3人の児童のうち、1人は、号令を数字でかけるように指示する。あと人の児童には、他の児童の運動の様子を見て間違っている場合は指摘してあげるようにと指示した。号令をかける児童は、大きな声で号令をかけている。様子を見る児童2名も適切な指示をしようとしている。</p> <p>○EN 指導者は、“OK. Stop. Good. Big hands.”と言いなながら拍手する。児童も一緒に拍手している。</p> <p>○EN 指導者は、TN 指導者に他にここで児童のためになる運動がないかと中国語で尋ねる。TN 指導者は、“足上げ運動”を中国語で提案すると EN 指導者は、“OK. Hands up.”と言いながら見本を示す。掛け声を“One two three four five six seven eight…”とかけていく。TN 指導者は、スピードを上げるようにと中国で言う。それに応じて EN 指導者の数字の掛け声のスピードが速まった。</p> <p>○EN 指導者は、“Stop. Sit down.”と指示する。児童は全員地面に座る。○続けて EN 指導者は、今日のゲームの説明を英語でする。“Starting point is there. The goal is over there. We use this ball. You hold the ball, and pass it to the next student. If you like, you can pass it like this.”指導者も児童もゴール地点に移動する。そこには、13個の輪が地面に置かれている。また、2色のカラーコーンたくさんある。そこでゲームの説明がある。TN 指導者は、輪やカラーコーンが見えるところに座るように中国語で指示する。EN 指導者は、</p>

No.	10
授業学年	6

<p>"Are you ready? Remember. Here you can get this. You can put in the circle. Girls' are green. Boys' are yellow. A girl put it like this, and then a boy. Can he put it on this?"と問う。女子置いたコーンにかぶせて男子のコーンを置けば、女子のコーンの数まで男子のコーン数になるということを理解させようとしている。</p> <p>○続けて、EN指導者は、応援をしようと語り掛ける。"While playing, I encourage your spirits. In P.E. Go go. You are outside. It's OK."</p> <p>○EN指導者はゲームを始める前に運動場を一周走るように"O.K. Let's run. Please come back over here, and over here."と指示する。</p> <p>○児童は、運動場を一周走ってゲームスタート地点に戻ってくる。男女別々になり、ボールを1つずつ手にする。男子児童は楽しそうにボールを渡した後、一連に應ずる。</p> <p>○TN指導者が、中国語でゲームの確認をする。投げてもいいけれど、受け取る児童はスタートラインから出てはいけない、ゴール地点でコーンを渡す人を一人決めることなどの内容。</p> <p>○ゲームが始まると児童は楽しそうである。</p> <p>○NT指導者が笛を吹いて一端終わり。"Boys team won."と言う。</p> <p>○TN指導者が、次にゴールでコーンを渡す人がそれぞれ一人ずつ行くように中国語で指示する。</p> <p>○2回目の楽しそう。NT指導者は、英語で Let's go など応援の声を上げるが、児童の応援が英語行われていることは確認できず。</p> <p>○3回目戦目。カラコーコーンを渡す人交代する。児童は楽しそう。運動量も多い。ボールがイレギュラーな動きをするので、速くから投げるとかえって遅くなってしまっている。</p> <p>○NT指導者が笛を吹き、試合終了を宣言する。続けて4回目戦目を始める。TN指導者が、"Go Go Go!"と応援する。児童は疲れているせいか、スピードは少し落ちていく。終了直後NT指導者は、"Girl Three, Boy One."と4戦中3戦は女子の勝ちであることを宣言する。</p> <p>○NT指導者は、コーンを渡す児童に対して"Get up there"と言いながら、コーンを置く位置を前にするように指示しながら置き場所を変える。男子児童は自らコーンを持つ位置を移動する。</p> <p>○5回目戦目を始める。元気に取り組む。終わりの笛が鳴って、"Girl Three, Boys Two."そのあと、"Be carefully. Last game."カラコーコーンを渡す児童も交代する。児童のスピードは最初に比べて落ちていく。</p> <p>○6回目戦目を始める。NT指導者が終了の笛を吹く。"Boys won. Boys won."と言う。3対3で引き分けとなる。</p> <p>○全員集合して挨拶する。NT指導者が"Good time. I had fun."とコメントする。WTが中国語で授業の振り返りをして終了。</p>
---

授業の特徴	<p>○NTが英語でほぼ進めるが、担任も中国語で適切に指導を担っている。</p> <p>○具体的なゲームの説明は英語ネイティブ教師が説明する。中国語話者教師が大切なところだけ言い直す。</p> <p>○体育の活動が主なので、英語で発する量は多くないが、わかっているゲームができにくい大切な情報もある。</p> <p>○NTが新しいゲームを考えて、英語でルール説明をしている。</p>
優れた点○ 疑問点△ 提案?	<p>○NTとTNとの役割分担と関わり方が互いを尊重し合っている。</p> <p>?もしもTNがゲームルールを中国語で説明しないことのような展開になるのだろうか。また、指導者にはどのような不安があるのだろうか。</p> <p>?男女別でなく、混合チームにしたらどのようなことが効果としてあるのか、心配事としてどのようなことがあるのか。</p>
その他	<p>・走ることで、グループで協力することが目的。プラスチックボールなので、跳ね方が不規則なためみんな協力し合う必要がある。</p>